

比較ノ見本トモナル可キ物品ハ官ニ於テ之ヲ排列スヘシ
但内國ニ於テ外國品ヲ模造セシモノハ此限ニアラス

第三條

自家發明ノ物品ニハ必其原由製法ノ記録ヲ附スヘシ又新
ニ見出シタル礦物藥種ノ類ニシテ分析ヲ經タルモノハ其
表ヲ附スヘシ

第四條

現在施行ノ事業ヲ擴張シ又ハ未發ノ事業ヲ新興シ或ハ一
時廢業ニ屬スルモノヲ再興セント謀ル等ノ意見アルモノ
ハ其方法ト費額トヲ詳細ニ記録シテ差出スヘシ

第五條

出品目錄ハ各類ニ分チ追テ頒布スル雛形ニ照準シテ三通
ヲ製シ本貫又ハ寄留ノ管轄廳ヲ經テ本局ニ出スヘシ尤目
録番號ハ現品ト差違之レ無キ様注意スヘシ

第六條

各種ノ物品中專ラ其生^キ素^ダヲ示スモノアリ又繪付彫刻等ヲ
示スモノアリ各其主トスル所ヲ以テ其類ノ目錄ニ編入ス
ヘシ

第七條

一人ニテ數種ノ物品ヲ差出ス者ハ其種類ヲ分チテ荷造ス

へシ尤彼此組合セテ一種ノ用ヲナスモノ假令ハ食桌上ノ
什物及ヒ文房具等ハ合併スルモ妨ケナシ

第八條

出品陳列ノ爲メ要スル所ノ坪數ハ明治十年一月十五日^(改)
三月十五日ヲ五月^(改)マテニ本貫又ハ寄留ノ管轄廳ヲ經テ本局
へ申出へシ

但本館農業館機械館等ヲ區別シテ申出へシ

第九條

出品ヲ會場ニ運搬スルハ十年二月二十八日^(改)二月廿八日
日^(改)ヲ以テ限リトス倘シ或ハ格別精巧ノ物品ヲ製出シ又

ハ止ムヲ得サル事故アリテ此期ニ後ル、者ハ本貫又ハ寄
留ノ管轄廳ヲ經テ其事由ヲ本局へ申出シ別段ノ許可ヲ請
フ可シ

第十條

些少ノ品ニテ出品ノ手數ヲ厭フ者ハ本貫又ハ寄留ノ管轄
廳へ依頼シ或ハ出品取次所へ委託シテ差出ストモ隨意タ
ルへシ尤後證ノ爲メニ委任狀ヲ渡シ置クヘシ

第十一條

出品取次所ハ東京横濱ノ兩所ニ設ク可キニ付キ各地出品
者ハ便宜ニ隨ヒ兩所ノ内へ當テ差送り置キ本人又ハ代人

到着ノ上受取ルヘシ尤手數料及ヒ藏敷等ハ總テ同所ノ規則ニ從フヘシ

但荷物送狀ハ正副二通ヲ製スヘシ

第十二條

植物動物ハ上野公園内勸業寮假出張所へ送致ス可シ

但シ預リ中養料ハ本人又ハ代理人ヨリ現物請取ノ節償

却スヘシ預リ中栽培豢養ハ十分ニ注意ス可シト雖モ若

シ枯凋斃死スルトモ預リ人其責ヲ受クヘカラス

明治十年内國勸業博覽會附屬賣物店規則

博覽會ノ場上ニ列シ品物ハ觀客ヲトヒ賣買ノ約束ヲナス

トモ閉場ノ後ニアラサレハ携テ歸リカマシ故ニ觀客ハ其望ヲ失ヒ品物主ハ入金ノ遲延ヨリ自ラ不都合ノ事情モアルヘキニ付茲ニ賣店ヲ取建ツルコトヲ許シ其店中ニテ場上ニ列シモノト同シ品物ヲ賣ラシメ衆人ノ便利ヲ圖ル因テ其規則ヲ設クル左ノ如シ

第一條

場上ニ列シ品物ト同シ品柄ノモノ數箇アリテ直ニ賣捌ン

ト思フ者ハ博覽會場外公園内ニテ別ニ一區ノ地ヲ無稅貸

與フヘシ

第二條

賣店タリトモ本局官員ノ差圖ヲ受ケ見苦シカラサル様建
築スヘシ

第三條

建築其他賣店ニ拘ハル一切ノ入用ハ自費タルヘシ

第四條

賣品ノ代價ヲ詳明ニ記シテ本局官員ノ檢査ヲ受クヘシ

第五條

賣品ノ代價ヲ高低シテ觀客ノ疑心ヲ引起スヘカラス必一
定ノ代價ヲ以テ賣却スヘシ

第六條

賣店ヲ取建ント思フ者ハ所用ノ地坪家作等ヲ取調ヘ繪圖
ヲ添テ明治十年一月三十一日(改)二月三十一日限リ本貫
又ハ寄留ノ管轄廳ヲ經テ本局ヘ申出ヘシ

(增) 九年九月 第七條

此賣物店ハ本會開場中許可スル事ナレハ開場當日ヨリ
開店ヲ許シ本會閉場同日閉店シ三十日以内ニ取拂フヘ
シ

明治十年内國勸業博覽會出品者心得

七七一
此博覽會ハ後日諸業ノ益々繁昌センコヲ謀ルタメ御國內
ニ産スル種々ノ品物ヲ一場ニ集メテ其美惡ヲ見分ケ産物

ノ位ヲ定ムルモノナレハ農工共其術業日頃ノ鍛煉ヲ示シ
他人ニ負ヌ様精々骨折テ譽ヲアラハスヘシ依テ左ノ通り
相心得ヘシ

第一條

凡テ此會ニ出サントスル物ハ其品柄ノ精粗多少ニ拘ラス
品物ノ大概ヲ帳面ニ書キ記シ扣共貳通往復ノ日數ヲ除キ
五十日間ニ取調本貫又ハ寄留ノ管轄廳ヲ經テ本局ヘ願出
許シヲ受クヘシ尤草木鑽石等ニテ平日無用ト思ヒ居タル
物モ鑑定者ノ吟味ニヨリテ大ニ用立ト間々コレ有ルコナ
レハ必ス一己ノ意見ヲ以テ取捨ヘカラス

第二條

珍敷品物タリトモ都テカタハノ鳥獸虫魚又ハ古代ノ瓦曲
玉書畫等ノ類ハ此會ニ出スヘカラス先ツ出品ノ大概ハ人
々必用ノ物ニテ追々繁盛ニ致度キ見込アルモノ又ハ御國
内ヘ賣弘メント思フモノ或ハ外國ヘ賣捌カントスル物歟
其外手際ノ良キ物又ハ考ヘノ巧ナル事ヲ較フル等ヲ以テ
專一トナスヘシ去ナカラ是迄ノ產物ヲ古シトシテ捨置新
奇ノ物ヲ求ルニハアラス殊ニ片田舎ノ村々杯ノ產物ニハ
世ノ人ノ相互ニ知ラサルモノモ有コナレハ前文ノ見込ア
ル者ハ是マテ在リ來リノ物タリトモナルヘク差出シ後日

ノ利徳ヲ計ルヘシ

第三條

出品人ハ成丈ケ後日ノ利益ニ氣ヲ附在リ來リシ品物ノ形等ヲ改メテ人々ノ氣ニ合フ様ニ拵ヘ又ハ是迄棄リ居タル品物ヲ工夫シテ一際用立様ニシ利益ヲ起ス事肝要ナリサレハ追々ノ利益ヲ見込ニシテ此會場ニテハ一時ノ利徳ヲ思フコナカレ且後々ノ見込ナキ品物ヲ此度限り仕入テ出スヘカラス

第四條

總テ製造物ハ巧ヲ極メ善ヲ主トシ專ラ人々ノ便利ヲ思ヒテ作り出シ取り分ケ日用ノ品ハ購求ノ都合ニキ様ニ成ヘシ下直ニイタスヘシ去リトテ品物ノ拵ハ不親切ニナラヌ様氣ヲ附ヘシ

第五條

後々輸出ノ目論見アリテ新ニ拵ユル物ハ各々自己ノ見込アリテ製造シ其意見ノ高キヲ示スハ勿論ナレトモ繁華ノ土地ヲハナレタル田舎ニ住居スル工人抔ハ度々見込違ニテ流行ニ外レ人ノ話ヲ解シ違ヘ不都合ナル事モ間々見受タレハ品物ノ形狀又ハ畫圖ノ模様等ヲ相談イタシタキ者ハ畫圖ヲ拵ヘ見込書ヲ添ヘ本貫又ハ寄留ノ管轄廳ヲ經テ

本局へ申出へシ左スレハ意見ノ廉ヤハ之ヲ示シ或ハ畫圖
雛形ヲモ貸渡スヘシ

第六條

出品者數人申合セ總代ヲ出京セシメテ事ヲ取扱シムルハ
勝手タレントモ各府縣ノ工人商人集會シテ篤ト品物ヲ實見
シ各地ノ有様ヲ考へ他人ノ出品ニツキテ自家ノ發明ヲ補
ヒ又ハ交易ノ手掛リヲ得ル等利益少ナカラサレハ成ルヘ
ク本人出京スヘシ

第七條

甲乙申合セ總代ヲ以テ事ヲ取扱ハシムルハ委託人及ヒ引
請人連名ニテ出品目錄ヲ差出スヘシ尤他日サシモツレノ
起ラサル様互ニ約定書ヲ取置ヘシ

〔内務省達〕九年八月廿八日番外 内國勸業博覽會事務局ノ儀是迄辰ノ

口ニ設置候處上野公園内へ轉局候條此旨相達候事

〔内務省達〕乙九年九月一日來明治十年内國勸業博覽會開設

ニ付テハ各管下出品人之内資金不充分ニリ其意ヲ不達
モノモ可有之右等ノ向ハ其情實篤ト取糾シ府縣稅ノ内
ヲ以資金之不足ヲ貸與或ハ運送費等補助候儀不苦候條
右之趣相心得實地施行之節々事由詳細可届出此旨相達
候事

〔內務省達〕九年九月十三日乙第百壹號 來ル明治十一年佛國巴里府於テ萬國大博覽會開設之儀本年第百拾壹號ヲ以テ公布相成候ニ就テハ明年內國博覽會へ出品ス可キモノ、中後來輸出之見込アル物品ハ一層精巧ヲ盡シ該會閉場後撰擇拔萃彼會ノ出品ニモ適當致スヘキ様豫テ其形狀摸樣等總テ周密意匠ヲ凝シ製造候様懇篤說諭可致此旨相達候事

〔增〕達日第九拾號 本年七月第百貳號ヲ以內國勸業博覽會開設ノ儀布告候ニ付テハ各廳ニ於テ製作ノ物品及外國ヨリ購入ノ器械並摸造雛形附屬書類計表等勸業上切要ノ分ハ

內務省へ照會ノ上可差出尤右ニ屬スル費用ハ各廳經費ニ相立候儀ト可心得此旨相達候事

〔增〕布達 九年十月十三日內本年八月當省甲第三十一號ヲ以明治十年內國勸業博覽會規則布達及ヒ置候處右ニ屬スル出品目錄及賣物店於テ賣品目錄共書式別冊之通相定候條右ニ準據シ詳細取調同年六月三十日限リ可差出候此旨布達候事

出品目錄凡例

一區類 此區へハ豫テ頒賦セシ區分目錄ニ照準シ第何

區何類ト記載スヘシ

一 出品主此區へハ本人ノ姓名ヲ記シ實印ヲ捺スヘシ若
 シ甲乙申合セ總代ヲ以テ從事セシムルトキハ
 出品者心得第七條ノ通りタルヘシ
 但結社又ハ組合ヲ設ケ或ハ結社又ハ組合ノ
 名義ナクトモ數人申合セ出品スル等ノモノ
 ハ社名又ハ組合名或ハ連名ヲ記載シ社印又
 ハ組合印或ハ連印ヲ捺スヘシ最モ多人數ニ
 テ區内へ記入シカダキトキハ便宜ニ寄り誰
 外幾名ト記スルモ妨ケナシ
 本人書式

藩縣府使

何國何郡何町住

但寄留人ハ本籍并寄留地ヲモ記ス

族籍又職業名

苗字名實印

委託書式

藩縣府使

何國何郡何町住

但書前ニ同シ

族籍等前ニ同シ

引請人苗字名實印

肩書前ニ同シ

前ニ同シ

委托人苗字名實印

本條區内合號記載方ハ出品願ヒ許可ノ節各出品人へ陳列場ノ合號ヲ指示スヘキニツキ合號ノ下タへ何ノ何ト記載スヘシ

一番號

此區へハ順次物品ノ番號ヲ記載スヘシ

一物名

此區へハ譬へハ米○麥○鑛○砥石○緞子○縮緬○綿布○麻布○花瓶○香爐○手箱○椀○紙○扇子等各出品ノ物名ヲ記載スヘシ

一質

此區へハ譬へハ米ハ烟稻早○鑛ハ金銀○砥石ハ青砥荒砥○織物ハ絹草木棉麻何々交織芭蕉布○花瓶香爐等土燒ハ陶○同シク石燒ハ磁○椀

ハ何木○紙ハ楮○扇子ハ紙張等ノ如ク委シク其原質ヲ示スヘシ

一製

此區へハ米ハ玄米白米○織色ハ何色堅縞何色ニ何ノ模様○磁器花瓶ハ白地ニ藍何模様錦樣何ノ圖○椀ハ溜塗無地赤地ニ金ノ何模様○扇子ハ白地ニ墨繪等ノ模様及ヒ形狀アル者ハ其形狀ヲ記載スヘシ

一數

此區へハ一對一箇一反一斤一組等ト記載シ組合セタルモノハ但シ一組何枚一組何箇ト傍記スヘシ

一 尺量

此區へハ譬へハ花瓶○置物○織物等各物品ニ
ヨリ縦横又ハ恰好ヲ要スルモノハ曲尺又ハ鯨
尺何尺何寸ト記シ且ツ斤量ヲ稱スルモノハ一
斤ノ量目ヲ記載スヘシ

一 產地

此區へハ物品産出ノ地名ヲ記載スヘシ

一 製造人此區へハ製造人ノ住所姓名ヲ記スヘシ

但數人協力分業シテ製成スルモノ譬へハ漆
器 木工 誰地 塗ノ如キハ各名ヲ記載スヘシ
誰蒔繪誰

一 原價

此區へハ製造等仕揚ケ迄ノ費用ヲ記載スヘシ

一 雜費

此區へハ產地於テ荷造リ迄ノ入費ヲ其時々取

調へ置追テ出京ノ節本人又ハ代理人必ス持參
シ東京於テ運搬等ノ諸費取調へ合計ノ上記入
スルコト心得ヘシ

一 賣價

此區へハ追テ出京ノ上原價并雜費及利益ノ見
込ヲ合計シ賣價ヲ記載スルコト心得ヘシ

第二款 外國博覽會

○英國龍動博覽會

〔指令〕九年二月廿九 英國政府ヨリ一昨年博覽會ノ賞牌進上ノ旨ニテ出張事務官園田孝吉ヨリ廻送ニ付御受收ノ上ハ博物館へ御備相成度且武田昌次坂田春雄并園田孝吉へモ同様ノ品相贈リ候趣ニテ園田孝吉儀ハ彼地ニ於テ受納跡兩人分此回送達ニ付右兩人へモ受納爲致度依テ現品相添此段相伺候也

三月十日 指令 伺之通

○澳國博覽會

〔內務省達〕八年十二月十三日 番外ヲ澳國ヨリ相廻候賞牌及附屬書類並表狀共左ノ通相渡候條此旨相達候事 別紙除之

〔內務省達〕同月同日 澳國博覽會報告及見聞錄一括別紙目錄壹葉添相渡候條此旨相達候事 別紙除之

○佛國巴里府博覽會

〔布告〕九年八月十七號 來ル明治十一年 西曆千八百七十八年 五月一日ヨリ同年十月三十一日マテ六ヶ月間佛蘭西國巴里府ニ於テ萬國大博覽會開設ニ付御國人民望ノ者ハ出品差許候條內務省へ可申出此旨布告候事

七九一 但規則書等ハ追テ同省ヨリ頒布スヘキ事

第二章 演技場

第一款 總テ演技場

〔内務省指令〕九年二月廿二 當縣士族ノ内從前能狂言ノ技
修行致居候者共今般申合セ勸進能ト唱ヘ小屋ヲ建テ
木戸ヲ設ケ見物人ヨリ若干ノ木戸錢棧敷錢ヲ收入興
行致度旨出願右ハ士族ニシテ如此所業聞届不苦哉

三月廿五日 書面伺ノ趣ハ不苦候事

〔内務省指令〕九年四月四 當縣士族ノ内當廳下大分町ニ於
テ擊劔會執行觀客ヨリ聊宛ノ坐料ヲ申請度旨願出候
向モ有之右ハ己ニ去明治六年八月相伺候次第モ有之

處御聞届難相成段御指令ニ付其準例ヲ以差圖及候テ
可然儀トハ相考候得共再應伺出候ニ付爲念相伺

五月十日 書面伺之通

第二款 外國人演技
第三款 諸見セ物 以上闕

第四卷 商人集會所

第一章 相場

第一款 貨幣相場

(改)布告 九年三月四日 明治八年六月 第一百八號布告貨幣條例ノ
第貳拾七號

内貨幣通用制限第六節ニ貿易銀ト本位金貨トノ價格比較

當分相定置候處今般左ノ通改定候條此旨布告候事

貨幣條例貨幣通用制限第六節

海關稅其他外國人ヨリ納ムル諸稅受取方ニ付貿易銀
但新舊ト本位金貨トノ價格比較ハ銀貨百枚ニ付本位
トモ
金貨百圓ノ割合タルヘシ

〔改〕布告日第九年四月廿八
明治六年六月第八號布告貨幣條例品
位置目表ノ内銅貨中ノ直徑記載誤謬有之ニ付左ノ通正誤
候條此旨布告候事

圖面(略ス)

〔再増〕布告日第九年十二月廿八
舊貨幣新貨ト交換ノ儀明治八年
十二月第二十二號ヲ以テ本年十二月迄延期ノ旨及布告置候
處猶來明治十年十二月迄延期セシメ候條交換并公納共明
治七年九月第九十三號布告ノ通可相心得此旨布告候事

但右期限過候上ハ舊金銀貨幣ヲリト總テ通常ノ地金ト
見做シ交換公納ト不相成候事

第二款 紙幣相場

〔再増〕布達日第九年二月廿五日
大藏省甲第三號 太政官并民部省札壹兩以下ノ分
交換ノ儀昨明治八年第九拾號布告ノ通り本年五月三十一
日迄延期候處爾來新紙幣損札大ニ致增加其引換紙幣未メ
製造ノ運ヒニ不至且銀銅貨ノ儀モ小位ノ貨幣一時巨大ノ
員額鑄造難相成候ニ付右壹兩札以下ノ分交換ノ儀ハ更ニ
來ル明治十年六月三十日迄延期候條右期限迄ハ無差支通
用可致候此旨布達候事

第三款 諸券相場

○公債証書

(布達)九年七月十五日大舊公債証書ノ内貳拾五圓五拾圓ノ証書多分所持有之者ハ枚數嵩張常々不便利ノ趣ニ相聞候條這般特殊ノ詮議ヲ以右二種ノ証書ニ限リ金額集メテ五百圓ニ盈ツル分ハ五百圓証書ト交換差許候條志願ノ者ハ明細書へ本証書ヲ添テ管轄廳へ可願出管轄廳ニテハ即當省へ本証書ヲ上納シ代リ証書ヲ受取所持人ニ可下付就テハ管轄廳ノ公債掛ハ公債牒簿及計表上右交換相濟候故証書ノ種類番號記號等總テ致刪除代リトシテ新タニ請取候証

書ノ種類番號記號等ヲ更ニ牒簿並計表へ登記可致此旨布達候事

第四款 穀物相場

〔大藏省達〕^乙九年十月十七日 貢納ニ相用候石代相場ノ儀地租改正以後ハ所用無之候處右季節ノ米價照會ノ筋有之候條以來共從前ノ振合ニ取調可差出尤モ下々方相場書ハ相添ユルニ不及平均調而已差出シ候儀ト可相心得此旨相達候事

但廢合分裂等相成候府縣ハ相場立箇所入狂ヒ増減可有之ニ付右様ノ分ハ取調ノ上箇所相定相場書差出候以前其旨可届出事

第二章 株式條例

〔指令〕^日九年九月廿一 株式取引條例ヲ奉シ營業スヘキ會社ノ事務主管ノ儀ニ付テハ昨八年七月第十六號公布ノ旨有之候處先般當省中勸商局相設ケ候ニ付テハ該事件ニ關係ノ事務ハ全局於テ擔務セシメ候間自今出願ノ順序モ可有之ニ付右主管改正ノ儀御布告相成候様致シ度依テ御布告按相添此段上申仕候也

九月二十上申ノ趣第百貳拾四號ヲ以テ布告候事

〔改〕^布告日^九年九月二十四號 明治七年十月第百七號及ヒ同八年七月第十六號ヲ以テ布告候株式取引條例中左ノ通改正候條

此旨布告候事

様式取引條例

第一條第一節中

「内務卿ニ屬シタル勸業頭」ノ十一字ヲ刪除シ「内務省」ノ三字ヲ挿入ス

第二條第一節中

「内務省ニ」ノ下「寮ヲ設ケタル勸業頭ニ」ノ十字ヲ刪除シ第二節中「勸業頭」ノ三字ヲ刪除シ「内務省ニ於テ」ノ六字ニ代フ

第三條第一節第五條第一節同條第三節中

「勸業頭」ノ三字ヲ刪除シ「内務省」ノ三字ヲ挿入ス

第六條第一節中

「勸業頭」ノ三字ヲ刪除シ「内務省ニ於テ」ノ六字ニ代ヘ「但シ」ノ下「勸業頭」ノ三字ヲ刪除シ「内務省ニ於テ」ノ六字ヲ挿入ス

第三十五條第一節中

「勸業頭」ノ三字ヲ刪除シ「内務省」ノ三字ヲ挿入ス

第三章 米商會所

第一款 米商會所條例

〔布告〕九年八月一號 從來各地方ニ於テ差許置候米油限月賣買一切差止メ自今米穀賣買相場取引致度者ハ會社規則取調可願出旨明治七年十二月 第三百三拾八號ヲ以テ布告候處今般更ニ米商會所條例別冊ノ通相定候條營業致度者ハ右ニ照準可願出此旨布告候事

米商會所條例

第一條 緒言

第一節 米商會所ハ米穀流通ノ爲メ米商人ノ集會シテ賣

買取引ヲ爲ス所ナリ而シテ協同結社之ヲ創立セントスル者ハ内務卿ノ免許ヲ請フヘシ

第二節 内務卿ハ地方ノ景狀ヲ察シ之ヲ創立スルノ緊要ナルヤヲ考定シ之ヲ許可スルト否トノ權ヲ有ス

第三節 米商會所營業ハ五ヶ年ヲ以テ一期ト定ム右滿期ノ際猶之ヲ保續セント望ム者ハ更ニ其趣ヲ申立内務卿ノ免許ヲ請フヘシ

第二條 會所創立ノ手續

第一節 米商會所ヲ創立スルニハ發起人十人以上ニシテ資本金ノ總額三萬圓以上タルヘシ

第二節 資本金ハ百圓ヲ以テ一株ト定メ發起人總員ニテ

必資本金總高ノ半額以上ニ當ル株數ヲ所持スヘシ

第三節 會所ノ發起人ハ創立願書ニ此會所ヲ創立セント

スル地方ノ從來米穀聚散ノ實況及ヒ將來賣買ノ目的ヲ

詳悉シ各記名調印シ區戶長ノ與書ヲ得會所創立證書及

定款申合規則等ヲ添ヘ之ヲ地方官廳ヘ差出スヘシ

第四節 地方官廳ニ於テハ願人共ノ身元行狀ヲ檢知シ且

其目的ノ利害障礙ノ有無ヲ識別シ又會議所等ノ設ケア

ル地方ニ於テハ其集議ヲ取り併セテ之ヲ參酌シ相當ト

思量スルルハ意見書ヲ添ヘ内務卿ヘ具申スヘシ

第三條 開業ノ手續

第一節 發起人等ニ於テ會所創立ノ許可ヲ受ケタル時ハ

直ニ其旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ世上ニ公告シ

テ他ノ株主ヲ募ルコトヲ得

第二節 發起人ハ其募ニ應シタル株主等ト共ニ集會ヲ爲

シ第五條ノ定限ニ從ヒ差向五人以上ノ肝煎及ヒ正副頭

取等ヲ撰任スヘシ

第三節 此頭取肝煎等ハ資本金總高ノ三分二ニ當ル現金

或ハ日本政府ノ公債証書ヲ此公債証書ハ時々相場ノ昂低

ノ七年大藏省乙第二十八號達ヲ其地方官廳或ハ國立銀行

ニ預ケ公正ナル預リ証書ヲ乞受ケ其寫ヲ内務卿ニ差出シ開業免狀ヲ請求スヘシ

第四節 會所ニ於テ開業免狀ヲ受ケタル上ハ其免狀ノ寫ヲ添ヘ何月何日ヨリ其商業ヲ創ムヘキ旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ法方ヲ以テ世上ニ公告シ始メテ之ニ從事スルコトヲ得

第四條 社印ノ用方并印鑑差出方等ノ手續

第一節 開業免狀ヲ得テ其商業ヲ創メントスルニ當リ會所ノ印ヲ刻シ頭取以下諸役員ノ印ト共ニ其印影ヲ一纏メニシテ内務卿ニ差出スヘシ若シ改刻スル者アルキハ

其都度之ヲ差出スヘシ

第二節 會所ノ諸願伺届又ハ諸証書約定書及ヒ往復ノ文書等ニ至ルマテ會所一般ニ關スル事ハ其會所ノ名義ヲ用非會所ノ印ヲ捺シ頭取肝煎等之ニ署名加印スヘシ

第五條 役員ノ定限

第一節 會所ノ役員ト稱スル者左ノ如シ

頭取

副頭取

肝煎

以下支配人書記等ノ名義ヲ以テ役員ヲ定ムルハ會所

ノ都合ニ任ス

第二節 會所ノ役員タル者ハ該會所ニ於テ賣買本人又ハ仲買人トナルコトヲ許サス

第三節 右役員ハ株主ノ定例總集會ノ節投票ヲ以テ十株以上ヲ所持シタル株主中ヨリ肝煎ヲ撰舉シ肝煎ハ其同僚中ヨリ正副頭取ヲ推任シテ新舊交代セシムヘシ

第六條 役員ノ職務

第一節 頭取ハ會所ノ事務ヲ總括シ他ノ役員ヲ指揮シ會所一切ノ責ニ任ス

第二節 頭取ハ肝煎分掌ノ事務ヲ定ムヘシ

第三節 副頭取ハ頭取ヲ助ケテ其事務ヲ共成シ時トシテハ其代理ノ任ニ當ルヘシ

第四節 肝煎ハ支配人書記等ノ役名ヲ議定シ其者等分掌ノ課程及ヒ俸給ヲ定メ社中差違ノ事ヲ判決シ金穀ノ出納ヲ管理シ株主ノ衆議ヲ取ラントスル事柄アルキハ之ヲ招集スルコトアルヘシ

第五節 肝煎ハ毎月何回ト定メタル會議ノ議員トナルヘシ

第六節 肝煎ハ其同僚中又ハ頭取ニ於テ職任ニ不適當ノ行ヒアルカ又ハ之ヲ怠ル者アルキハ臨時委員ヲ定メ次

ノ肝煎會議ノ日ニ無名投票ヲ以テ三分ノ二以上ノ説ニ
從ヒ之ヲ退職セシムルヲ得

第七條 株主ノ權利制限及株式讓渡ノ手續

第一節 株主ハ會所ノ本主ニシテ會所資本ノ一部ヲ入金
シ其入金高ニ應シタル株券ヲ所持シ以テ株數相當ノ權
利ヲ有シ營業上ノ損益ヲ負擔スル者ナルカ故ニ時々ノ
景況ニ着目シ金員及ヒ出納勘定帳簿ヲ檢閲セント求ル
ムルノ權アリ

第二節 株主ハ肝煎ノ承認ヲ經テ賣買本人又ハ仲買人ト
爲ルコトヲ得其場合ニ於テハ別段証人ヲ要セスト雖モ仲

買人タルノ身元金ヲ出サシムルコト第八條第三節ノ通り
タルヘシ賣買上ニ於テハ之ヲ仲買人ト稱スヘシ

第三節 株主ハ何等ノ事故アルトモ會所解散ノ期ニ至ラ
サル時間ハ其株金ヲ取戻スコトヲ得ス

第四節 株主ハ肝煎ノ承認ヲ受ケタル上ニテ其所持ノ株
式ヲ賣渡シ讓與ヘ又ハ質入抵當ト爲スコトヲ得ヘシ但其
質入抵當ト爲シタル時間ハ總會議事ノ時發言ノ權ナク
又役員ノ撰舉ニ應スルコトヲ許サス

第五節 株主其所持ノ株式ヲ賣渡シ又ハ讓與ヲ爲ス時ハ
其賣買授受雙方ヨリ連印ノ証書ヲ會所ニ差出スヘシ會

所ハ此証書ヲ請取リタル時ニ株主中ノ姓名ヲ書改ムヘシ若シ右手續キヲ爲サ、ル間ハ証書賣買授受ノ効ナキ者トス

第八條 仲買人入社ノ手續

第一節 仲買人トハ肝煎ノ承認ヲ經相當ノ身元金ヲ差入レテ自己ノ賣買取引ヲ爲シ又ハ社外人ノ依頼ヲ受ケ仲買人ト爲リ之ニ從事スル者ヲ云フ但他人ノ依頼ヲ受ケ仲買ヲ爲シタル時ハ其依頼人ノ姓名住所等ヲ其時々肝煎ニ申告スヘシ

第二節 仲買人タラントスル者ハ會所ニ於テ定タル期日

迄ニ書面ヲ以テ肝煎ニ申出ヘシ此書面ニハ姓名住所及丁年ナル事米商人タル事等ヲ詳記シテ之ニ調印シ且二名以上証人ノ連印ヲ要ス

第三節 仲買人タルノ身元金ハ少クトモ百圓以上タルヘシ

第四節 仲買人退社セントスル時ハ其旨趣ヲ書面ヲ以テ肝煎ニ申出ヘシ肝煎ハ之ヲ受ケテ十日間之ヲ會所ニ張出シ置キ會所ニ連帶シタル計算上ノ關係ナキヲ認メタル上ニテ其退社ヲ許シ身元金ヲ返付シテ証人ノ責任ヲ解クヘシ

第九條 商會所一般ノ規則

第一節 會所ニ於テハ仲買人ノ身元金及ヒ証據金ヲ使用スヘカラス

第二節 會所ハ賣買上ノ差違レヲ解キ違約ノ處分ヲ爲スノ義務アリ

第十條 賣買取引ノ手續

第一節 會所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現場ト定期ノ二様ニ分チ必ス現米金ノ受渡シヲ爲スヘシ但定期ノ分ト雖モ其期限三ヶ月ヨリ永カルヘカラス

第二節 賣買ヲ約シタルキハ賣買主ノ雙方ヨリ其約定ノ

証據金ヲ會所ニ預リ置クヘシ此証據金ハ少クトモ約定代金高十分ノ一宛ヲ下ルヘカラス又此証據金ノ外ニ時々相場ノ高低ニ依リ追証據金増証據金等ヲ差入シムルコトヲ得ヘシ

第三節 賣買約定ノ期日ニ至ツテハ會所役員立會ノ上現米金ノ受渡ヲ爲シ其取引ヲ終ルヘシ

第四節 定規約定期限内ニ甲ヨリ乙ニ賣リシ米ヲ乙ヨリ甲ニ買戻シ又ハ甲ノ乙ヨリ買ヒシ米ヲ甲ヨリ丙ニ賣ルコトヲ得ヘシ但最初ニ定メタル期日ニ至テハ必ス現米金ノ取引ヲ爲スヘシ

第十一條 手数料并口錢ノ制限

第一節 會所ニ於テ賣買雙方ヨリ收領スヘキ手数料ハ賣買金高千分ノ二ニ超ユヘカラス

第二節 仲買口錢ハ其頼人トノ示談ニ任スト雖モ會所ニ於テ豫メ其制限ヲ立ルモ妨ケナシトス

第三節 手数料口錢ハ其決算ノ時ニ至リ賣買取引ニ關スル他ノ債主ニ先ツテ之ヲ收受スルコヲ得

第十二條 會議ノ規則

第一節 會所ノ會議ヲ分ツテ肝煎會議ト株主總集會トノ二類トス

第二節 肝煎會議ハ毎月何回ト定メ頭取ヲ以テ議長ト爲ス此會議ニ於テ發言ノ權ハ一人ニ付一説ト定メ衆說ヲ取リテ其議事ノ可否ヲ決ス若シ可否ノ數相半ハスルキハ議長ノ判決ニ任カス

第三節 右會議ニ當リ出席定員ノ半ニ充メサルキハ其議事ヲ始ムヘカラス但急遽ノ事件ハ格別ナリトス

第四節 株主ノ總集會ハ毎年一度又ハ數度例日ヲ定メテ之ヲ開ク此集會ハ頭取肝煎ノ撰舉及ヒ會所營業ノ實況計算ノ得失ヲ議スルヲ主務トス

第五節 株主五分ノ一以上ノ請求又ハ肝煎ノ衆議ニ依リ

テハ臨時總集會ヲ開クコトヲ得

第六節 總集會ニ於テノ發言ノ權利決議ノ方法ハ便宜ニ從テ之ヲ定ムヘシ

第七節 總集會ニ於テノ議長ハ頭取又ハ株主中ヨリ撰舉スルモ妨ケナシ

第十三條 資本金増減ノ手續

第一節 會所ニ於テ資本金高ヲ増減セントスル時ハ總集會ノ決議案ヲ具シ頭取肝煎其次第ヲ詳記シ内務卿ノ指揮ヲ受クヘシ

第二節 右増減ノ許可ヲ得タル上ハ直ニ世上ニ公告シ其

増減セシ名前書ヲ取纏メタル上内務卿ニ届出且地方官應或ハ銀行ニ預ケタル營業保證ノ金額ヲ増減スヘシ

第十四條 損益金計算ノ定規

第一節 頭取肝煎ハ毎年兩度以上營業ノ總決算ヲ爲シ其内税金并ニ積立金其他一切ノ社費ヲ引去リ残り損益金ヲ以テ株數ニ割合セ之ヲ株主ニ分賦スヘシ

第二節 右計算表ハ株主ニ分賦ノ日ヨリ十五日内内務卿ニ届出且世上ニ公告スヘシ

第十五條 納税ノ手續及ヒ積金ノ規則

第一節 會所ノ税金ハ明治八年五月第八十八號布告ニ照準

シ前半年分ハ七月中後半年分ハ翌年一月中之ヲ地方官廳へ上納シ地方官ハ一般ノ收税手續ニ依リ租税寮へ送達スヘシ

第二節 株主等へ配當スヘキ純益金一ケ年一割即百分ノ十以上ノ利息ニ當ルキハ肝煎ノ衆議ヲ以テ割賦高ノ内幾分ヲ引去リ之ヲ積立テ以テ非常準備金ト爲スヘシ

第十六條 報告ノ定規

第一節 頭取肝煎ハ株主及ヒ役員仲買人ノ進退又ハ賣買ノ實況等ヲ詳記シ之ヲ内務卿ニ申告スヘシ

第十七條 官員檢査規則

第一節 内務省又ハ地方官廳ヨリ時トシテ官員ヲ派出シ會所營業ノ模様其他諸帳簿等ヲ檢査セシムルコトアルヘシ若シ右ニ付疑問等アル時ハ逐一答辨ヲ爲スヘシ

第十八條 諸願届其他ノ書類上達ノ定規

第一節 會所ヨリ諸願届其他ノ書類及ヒ報告書共内務卿へ差出サントスルニハ都テ正副三通タルヘク其正副トモ必ス捺印シテ地方官廳ヲ經由スヘシ

第十九條 罰則

第一節 會所ノ役員及株主仲買人等此條例ヲ犯スカ又ハ役員タル者株主仲買人ノ條例ニ背犯シタルヲ不問ニ措

キ又ハ背犯シタル實証アルキハ役員并本人トモ其事ノ
輕重ニ依リ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二節 官員檢査ノ節簿冊書類ヲ差出スコトヲ拒ミ又ハ疑
問ニ答辨ヲ爲サ、ル者アルキハ頭取又ハ其主任者へ五
十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第三節 會所限リ違約人ヲ處分シ過怠等ヲ申付クルハ除
名或ハ株金身元金約定証據金ノ高ニ超ユヘカラス
右ノ通制定候事

第二款 米商會所成規

(布達)九年八月一日内本年八月太政官第百五號公布米商會所
條例ヲ遵奉シ營業致度者ハ自今別冊米商會所成規ニ照準
出願可致此旨布達候事

但昨八年大藏省甲第拾六號同第拾九號及ヒ同年六月心
得達ノ趣ハ取消候事

米商會所成規

目錄

第一條 會所創立出願ノ手續

第二條 開業ノ手續

第三條 營業報告ノ手續

第四條 諸願届其他書類用紙ノ事

第五條 記録保存ノ事

附

第一號 創立願書々例

第二號 創立證書々例

第三號 會所定款書例

第四號 申合規則書例

第五號 開業免狀雛形

第六號 實際報告書例

第七號 計算表書例

第八號 株主仲買人姓名表報告ノ書例

第九號 役員上任報告書例

米商會所成規

此成規ハ米商會所ノ條例ヲ遵奉シ該會所ヲ創立セシム
ト欲スル者ヲシテ其創立出願ノ手續及ヒ社則其他ノ
標準等ヲ豫知セシメンカ爲メ之ヲ製定スル者ナリ

第一條 會所創立出願ノ手續

第一節 凡ソ米商會所條例ノ旨趣ニ基キ會所ノ發起人ヨ
リ差出ス可キ創立願書ハ書例第一號ニ照準シテ之ヲ編

製スヘシ

第二節 創立証書ハ會所ヲ創立スルニ付キ綱領ノ條件及
ヒ株主ノ約束ヲ明記シ總員ヲシテ必之ヲ確守踐行セシ
ムヘキ旨ヲ保證スルモノナリ書例第二號ニ照準シテ之
ヲ編製スヘシ

第三節 會所定款ハ會所ヲ創立スルニ付發起人該會所ノ
便宜ヲ商量決定シテ株主一同ヲ約束スヘキ條款ヲ記載
スルモノナリ書例第三號ニ倣ヒ之ヲ編製スヘシ

第四節 申合規則ハ賣買取引ニ付キ賣買主双方ノ間ニ於
テ會所ヘ對シタル約束ノ要件等ヲ記載スルモノナリ書

例第四號ニ倣ヒ成ル可ク丈ケ綿密ニ之ヲ編製スヘシ

第五節 右ノ會所定款申合規則ハ發起人ニ於テ書例中ノ
箇條ヲ省略シ或ハ之ヲ増加スルモ其便宜ニ任スヘシ

第六節 當省ニ於テ會所ノ創立ヲ承認スルキハ其創立証
書及ヒ會所定款申合規則等ニ當省ノ印章ヲ鈐シ地方官
ニ指令シ以テ之ヲ請願人ニ達セシムヘシ

第二條 開業ノ手續

第一節 發起人會所創立ノ許可ヲ受ケタル時ハ直ニ條例
ノ旨趣ニ遵ヒ株主募集役員撰任等ノ順序ヲ經テ資本總
高ノ内三分ノ二營業保證ノ金額ヲ其地方廳或ハ國立銀

行ニ預ケ以テ開業免狀請求ノ手續ヲ爲スヘシ

第二節 會所ヨリ地方廳又ハ國立銀行へ預クル所ノ保證

金若シ公債証書ナルキハ夫レニ屬シタル定規ノ利子ハ會所之レヲ得ヘシト雖モ其他利子ヲ收受スルコトナカルヘシ尤モ別段ノ約定ニ據リ預ケタル時ハ其法方約定ノ旨趣ヲ詳記シ地方廳ヲ經テ之ヲ當省ニ届出ヘシ

第三節 當省ニ於テハ會所ノ名ヲ以テ地方廳或ハ國立銀

行ニ預ケタル現金或ハ公債証書ノ實額其會所資本總高ノ三分二ニ相違ナキ確證ヲ檢シ其會所ニ開業免狀ヲ第五號離形與フヘシ

第四節 會所開業ノ後ト雖モ其商業ノ模様ヲ檢查シ賣買

主ヨリ差入タル証據金ノ合高ヲ見合セ資本金ノ額ヲ増加スヘキ旨ヲ命スルコトアルヘシ

第三條 營業報告ノ手續

第一節 會所頭取肝煎ハ左ノ報告ヲ地方官廳へ差出ヘシ

地方官ニ於テハ一應檢査ノ上當省へ差出スヘシ

第一 會所毎月實際報告

是ハ毎月前一ヶ月賣買約定ニ係リタル金穀ノ合高ヲ掲ケ其内現場定期ノ取引ヲ區分シ之ニ平均相場ヲ附記スヘシ但書例第六號ニ照準シテ之ヲ

編製シ翌月五日迄ニ該地ヲ差立ツ可シ

第二 總計表報告

是ハ每年前一个年營業ニ係リタル金員出納高ヲ揭ケ其内株金并手數料等ノ總收入ヨリ税金及ヒ配當金其他社費一切ノ遣拂又ハ積立金ノ有無等ヲ記載スヘシ但書例第七號ニ照準シテ之ヲ編製シ翌年一月中ニ該地ヲ差立ツ可シ

第三 株主仲買人姓名表報告

是ハ株主仲買人ノ姓名族籍住所株數及ヒ身元金高等ヲ記載スヘシ但書例第八號ニ照準シテ之ヲ

編製シ定式撰任集會ノ日ヨリ三十日ヲ限リ該地ヲ差立ツ可シ

第四 役員上任報告

是ハ頭取副頭取肝煎支配人上任ノ都度其印鑑ヲ添ユ可シ但書例第九號ニ照準シテ之ヲ編製シ上任ノ日直ニ該地ヲ差立ツヘシ

第四條 諸願届其他書類用紙ノ事

第一節 會所ヨリ地方廳ヲ經テ當省ヘ差出スヘキ諸般ノ願届其他ノ書類及ヒ報告書等ハ都テ美濃紙又ハ該會所ノ名號アル界紙ヲ用フヘシ

第二節 創立証書及ヒ會所定款申合規則ノ本書ハ必證券
界紙ヲ用フヘシ又株券其他證券類ハ印稅規則ニ從フヘ
シ

第五條 記錄保存ノ事

第一節 創立証書會所定款申合規則及頭取肝煎撰舉社中
集會ニ就テノ報告議事ノ如キ會所ニ關係スル書類ハ一
切之ヲ記錄ニ綴屬シ頭取肝煎之ニ記名調印シ以テ後日
ノ證據參觀ノ爲メニ保存シ臨時政府ノ檢査ヲ受クヘシ

第一號 創立願書々例

米商會所創立願

明治九年八月太政官第百五號公布米商會所條例ノ旨趣ニ
基キ凡ソ下條ノ目的ニ據テ協同結社米商會所ヲ創立シ營
業致度候ニ付右創立御許可被成下度依テ別紙創立証書并
ニ定款申合規則共相添此段奉願候

何府使
縣管下

一 創立場所 何町

一 戶數 何萬軒

一 該地費消米 何百萬石

一 同產出米 何拾萬石

一 輸出或ハ輸入米 何拾萬石

內譯

高米凡何部

何郡何港ヨリ輸出

同何部

何國何郡何港へ廻着

一米商人

何百人

一賣買取引米凡積

何千萬石

右現今ノ實況及將來賣買取引ノ見込共書面之通御坐候以上

發起人

年號月日

何 某

管轄地方長官宛

第二號 創立証書ノ書例

米商會所創立証書

明治九年八月太政官第百五號公布米商會所條例ノ旨趣ヲ遵奉シ米商會所ヲ創立シテ其商業ヲ經營セント謀リ此証書第五條ニ連名シタル者協議シテ左ノ條ヲ取極候也

第一條

當會所ノ總員ハ米商會所條例ノ旨趣ヲ遵奉シ且ツ會所定款申合規則ヲ確守スヘシ

第二條

當會所ノ名號ハ何々(國名郡名又ハ)米商會所ト稱スヘシ

第三條

當會所營業ノ年限ハ開業ノ日ヨリ滿一箇年タル可シ

第四條

當會所ハ何府使 縣藩第一大区一小区一港町一番地ニ取建ツ可シ

第五條

當會所ノ資本金ハ一萬圓ニシテ之ヲ一十百株トナシ其内發起人ニテ所持スヘキ株數并ニ其屬籍住所姓名等左ノ表ノ如シ

株數	屬籍	住所	姓名
----	----	----	----

一株 此金一十百圓	一 <small>府使 縣藩</small> 華士族平民	一 <small>府使 縣藩</small> 第一大区一小区一港町一番地	某
合株數一 此金一萬圓			總計幾人

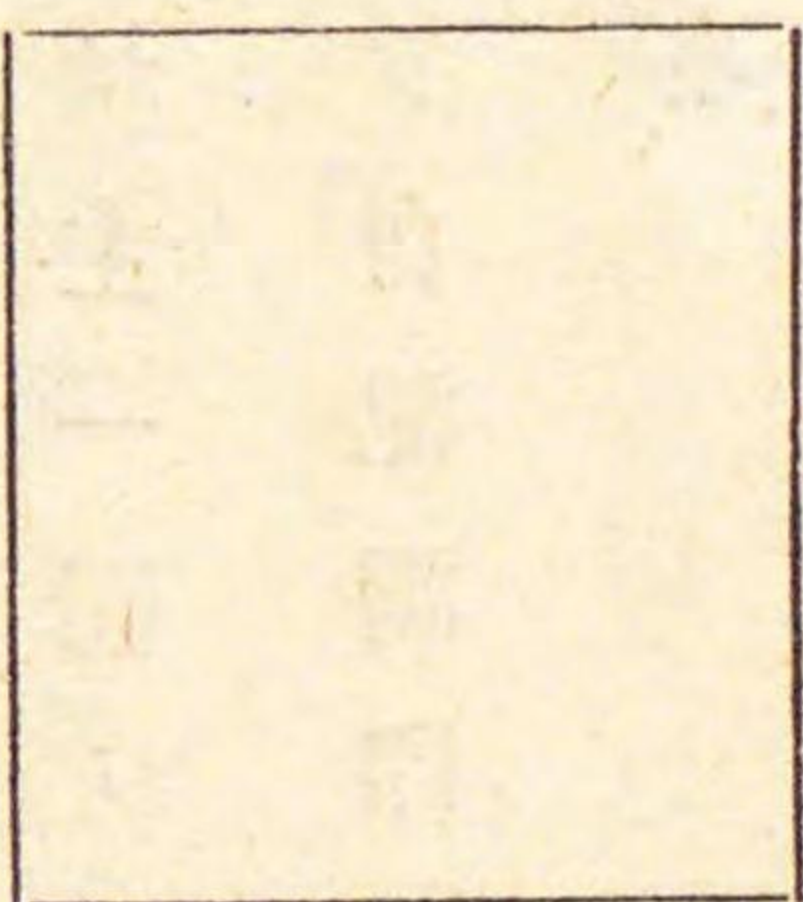
第六條

當會所ノ株主及ヒ仲買人ハ内國人ニ限ル可シ
此証書ハ株主一同ノ利益ヲ謀ル爲メ取極メタル証據トシ
テ各姓名ヲ自記調印致シ候追テ加入候者ハ順次連署セシ
メ可申候也

年號月日

株主等 連名 印

内務省
鈐印位置



(原本朱印)

第三號 會所定款書例

會所定款

明治九年八月太政官第百五號公布米商會所條例ノ旨趣
ヲ遵奉シ何^{使府藩縣}第一大区一小区一郡一村一番地ニ於テ之
ヲ創立センカ爲メ協同結社シテ爰ニ株主一同互ニ約定
スル規程ノ條々左ノ如シ

第一條

當會所ニ加入シ株主帳ニ記名調印スル人々ハ創立證書及
此定款并申合規則ニモ之ヲ承諾セシ證據トシテ必記名調
印スヘシ

第二條

當會所ハ米商人ノ集會シ賣買取引ヲ爲ス所ニシテ其事務
ハ此定款并申合規則ニ從ヒ之ヲ會所頭取及肝煎ニ委任ス
ヘシ又頭取肝煎等ハ其約定ヲ監護シ取引ヲ確實ナラシメ
其他會所一切ノ責ニ任スヘシ

第三條

當會所ノ役員ト稱スルモノハ左ノ如シ

頭取 壹人

副頭取 幾人

肝煎 幾人

商議掛

此内 検査掛 各幾人

出納掛

支配人 幾人

書記方 幾人

勘定方 幾人

簿記方 幾人

右ノ役員ハ各其職務ニ對シ會所ニ於テ定メタル給料ヲ受
收スヘシ

第四條

當會所ノ肝煎ハ投票ヲ以テ十株以上ヲ所持シタル株主ノ
中ヨリ撰舉シ其人員ハ幾名ト定ムヘシ但此内幾名ハ何地
ノ會所創立ニ壹ケ年以上在住シタルモノニ限ルヘシ又其撰
舉ノ初集會ノ月日ハ株主一同ノ都合ニ任セ以後ハ毎年定
式ノ集會ニ於テ之ヲナスヘシ
右撰舉ニ應シタル肝煎ハ其同僚中ニ於テ投票ヲ以テ頭取

壹名副頭取幾名ヲ撰任スヘシ
 若シ頭取肝煎等ニ適當スヘキ人才アリテ衆望之ニ歸スル
 モ其者ノ所持株不足ナルヲ以テ撰舉シ難キハ其株數ヲ
 定額ニ充ツル迄ノ金高ニ増加セシメ然ル后撰任スルコトア
 ルヘシ
 正副頭取ノ在職ハ一ケ年又肝煎ハ二ケ年(或ハ三ケ年)間ヲ
 以テ一期ト爲スヘシ但衆望ニ由リテハ重年セシムルコトヲ
 得ヘシ

毎年肝煎等撰舉ノ集會ニ於テ其人員ノ半(或ハ三分之一)ヲ新
 任シ其順次舊員ト交代セシムヘシ故ニ初年奉職セシ人員
 ノ半(或ハ三分之一)ハ一ケ年間又ハ殘員ハ二ケ年(或ハ三ケ年)
 間在職タルヘシ

頭取肝煎ノ内不時ノ缺員アルトキハ他ノ頭取肝煎ニテ代
 人ヲ撰舉シ其缺ヲ補フヘシ但シ此代人ハ先役ノ奉職期限
 シ踰ユ可カラス

支配人以下ノ役員ハ肝煎ノ衆議ニ依リ必社中ノ人員ニ限
 ラス又社外ヨリ之ヲ撰任スルコトアルヘシ

第五條

頭取ハ會所一切ノ事務ヲ總括シ他ノ役員ヲ指揮シテ其職
 任ヲ盡サシムルノ權アルヘシ又頭取ハ肝煎ノ分掌各掛ヲ

議定スルノ權アルヘシ
 頭取ハ株主決議ノ旨趣ニ從ヒ株金納入ノ手續ヲ取極メ之
 ヲ株主ニ通達シ或ハ之ヲ督促シ或ハ期約ヲ違フ時ハ會所
 ニ於テ其本人へ告知ノ上株金高ヲ沒收スルノ權アルヘシ
 頭取ハ米商會所條例及此定款并申合規則ニ從ヒ總テ其適
 任ノ職務ヲ執行ヒ不正犯則ノ所行ハ自ラ之ヲ爲サ、ルノ
 ミナラス又他人ヲ監督スルノ責ニ任スヘシ
 頭取ハ肝煎ノ集會ニ臨ミ常ニ議長トナリ其議事ヲ判決ス
 ルノ權アルヘシ
 副頭取ハ常ニ頭取ノ事務ヲ翼成シ時トシテハ其代理ノ任

ニ當ルヲアルヘシ
 肝煎ハ衆議ヲ以テ支配人以下ノ役員ヲ撰任シ其分掌ノ課
 程及ヒ其權限給料年期等ヲ取極メ又其身元引受人ヲ約定
 シ或ハ保証金ヲ取置キ又ハ之ヲ褒貶黜陟スル等ノ權アル
 ヘシ
 肝煎ハ衆議ヲ以テ社中ノ差違レヲ判決シ金穀ノ出納ヲ管
 理シ社中處務上ノ成例ヲ廢立シ又ハ株主ノ衆議ヲ取ラン
 カ爲メ臨時ニ之ヲ招集スルノ權アルヘシ
 肝煎ハ毎月何日ヲ以テ肝煎定式ノ集會日ト極ムヘシ又此
 會議ニ於テ發言ノ權利ハ一人ニ付一説ト定メ衆說ヲ取リ

テ其議事ヲ決定ス若シ可否ノ數相半ハスルキハ議長ノ判
決ニ任ス可シ

右會議ニ當リ出席ノ定員其半ハニ充タサルトキハ其議事
ヲ始ム可カラス但急遽ノ事件ハ此限ニアラサル可シ
肝煎ハ頭取又ハ其同僚中ニ於テ職任ニ不相當ノ行ヒアル
カ又ハ職務ヲ怠ル者アルトキハ時宜ニヨリ其者ヲ免黜ス
ルコトヲ得ヘシ但此場合ニ於テハ臨時委員ヲ命シテ其是非
ヲ議シ次回集會ノ節無名投票ノ法ヲ以テ三分二以上ノ説
ニ從ヒ其可否ヲ決スヘシ

肝煎ハ株主仲買人ノ所爲ヲ監督シ又其手ニテ設ケタル私

則慣法等ヲ廢止スルノ權アル可シ尤此權ヲ施スニハ先ツ
集會ノ上之ヲ評議シ次回ノ集會ニ於テ決定シ之ヲ行フヘ
シ

肝煎ハ社外ノ人ト社中ノ人トノ間ニ起リタル差縫レニハ
一切關係スルコトナカル可シ尤社中ノ仲買人社外ノ人ノ爲
メニ仲買ヲ爲シ退社逃亡死去等ノコトアル場合ニ當リ其賣
買本主ト相手タル社中ノ仲買人トノ間ニ差縫レアルトキ
ハ此限ニアラサル可シ

此場合ニ於テ社外ノ賣買本主ヨリ肝煎ノ處決ヲ請求セル
時ハ其賣買本主ヲ社中ノ仲買人同様ニ見做シ之ヲシテ肝

煎ノ處決ヲ守リ決シテ違背セサルヘキ旨ノ誓詞ヲ爲サシ
 メ然ル後之カ處決ヲ爲ス可シ
 頭取ノ決議ニ依リ肝煎ノ内幾名ニ商議掛出納掛検査掛ヲ
 命ス商議掛ハ常ニ會所營業事務上ノ得失利害ヲ商量討論
 シ及ヒ凡百ノ施設上ニ付キ其順序ヲ立テ或ハ其議案ヲ草
 シ之レヲ頭取ニ申陳シ又ハ社中ノ衆議ヲ取ラシカ爲メ臨
 時集會ヲ催シ併セテ社中一般ノ疑問ニ答辨シ及ヒ違約人
 處分等ノ事ニ任スヘシ
 出納掛ハ會所ニ關スル金穀出納ノ事ヲ擔當シ資本金并ニ
 身元金証據金米代金及ヒ庫穀等ヲ管守シ併テ銀行引合等

一五八

ノ事ニ任ス可シ

検査掛ハ會所ノ監察主役ニシテ常ニ金穀ノ出納ヲ監シ諸
 帳簿計算ノ正否等ヲ點檢シ併セテ營業ノ實況ヲ視察シ現
 務ノ得失ヲ指摘シテ其顛末ヲ記録シ之レヲ頭取肝煎及ヒ
 株主一同ニ報告スル等ノ事ニ任スヘシ
 検査掛タル者職務ヲ怠リ又ハ偏頗ノ所業其他犯則ノ所業
 アル時ハ其處分他ノ掛リノ者ヨリ重クスヘシ

第六條

株主定式集會ハ毎月何月幾日幾度ニテモ其月日午前第何
 時ヨリ第何時マテ當會所ニ於テ之ヲ執行スヘシ其他總株

數五分一以上ニ當ル株主ノ請求又ハ肝煎ノ協議ニ依リテ
 ハ臨時集會ヲ開クコアル可シ右臨時集會ヲ開クニ當リテ
 ハ其場所并期日時限及ヒ議事ノ大意ヲ記シテ少クトモ十
 日以前ニ頭取肝煎ヨリ總株主ニ報知スヘシ
 總株主五分一以上ニ當ル株主ノ協議ニテ臨時集會ヲ開カ
 ント欲スルハ其議事ノ大意ヲ頭取ニ陳ヘ招集ノ取扱ヲ
 請求ス可シ若シ頭取ニ於テ十五日間以上其手續ヲ怠ルト
 キハ請求人自ラ之ヲ招集スルコヲ得ヘシ
 株主集會ノ議長ハ頭取或ハ株主中ヨリ臨時之ヲ撰任ス可
 シ

株主集會ニ當リ出頭ノ總員其半ニ充タサルハ會議ヲ延
 引シ更ニ他日ヲ刻ス可シ
 集議ニ臨ミ株主五名以上ニテ投票ヲ乞フニ非サレハ別ニ
 發言可否ノ多少ヲ算スルニ及ハス議長其議ヲ斷決シテ之
 ヲ會所ノ議定録ニ記入シ以テ他日其事ノ証據ト爲スヘシ
 若シ株主五名以上ニテ投票ヲ乞フハ議長ノ指揮ニ從テ
 投票法ヲ行フヘシ但此投票ノ多數ヲ以テ集議ノ決定ト見
 做スヘシ
 集議ニ當リ可否ノ發言相半ハスルハ議長之ヲ判決スル
 ノ權アル可シ

定式又ハ臨時集會ニ於テ定款并ニ申合規則ヲ加除改正ス
ル等ハ勿論其他會所一般ニ關係セシ條件ヲ決議シタルキ
ハ之ヲ明細ニ記シ必内務省ヘ申告スヘシ

第七條

株主ハ集議ニ臨ミ一株ニ付每事一説ヲ發スルノ權アリト
ス然レトモ各其所持スル株數十株以上百株迄ハ五株毎ニ
一説宛百株以上ハ十株毎ニ一説宛ヲ増加ス可シ但會所ノ
役員ハ發言スルヲ得ヘカラス
株主ハ其株式ヲ質入抵當トナシタル時間ハ集議ニ臨ミ發
言スルヲ得可カラス

株主ハ集議ニ當リ代人ヲ出シ發言セシムルヲ得ヘシ但代
人タル者モ自カラ其權ヲ有スル者ニ限ル可シ

第八條

株券破損或ハ紛失セシキハ其株主ノ請求ニ應シ之ヲ書換
ヘ付與スヘシ但破損ナレハ其舊券ト引換ヘ紛失ナレハ其
次第ヲ明記シ且相違ナキ旨保証人連印ノ証書ヲ差出サシ
ムヘシ

第九條

當會所ニ於テ株主ノ集金ヲ要スル時ハ其度毎ニ必頭取ノ
名ヲ以テ少クトモ十五日以前ニ其旨ヲ通達ス可シ株主タ

ルモノ若集金ノ期日ニ至リ其納金ヲ怠ル時ハ更ニ頭取ヨリ報告書ヲ達シ其集金并ニ期限後ノ利子其怠慢ヨリ生ル雜費ヲモ納メシムヘシ但此報告書ニハ再ヒ其期日ヲ定メ若此期ヲ誤ルルハ其株式ヲ沒收スヘキ旨ヲ記載ス可シ右ノ報告書ヲ達スルニ尙再期ヲ怠リ納金セサル者ハ頭取ノ意見ヲ以テ其株式ヲ沒收スルコトヲ得ヘシ株主其所持ノ株式ヲ沒收セラル、時右沒收以前ニ納ムヘキ集金ハ沒收後ト雖モ尙其責ヲ免ルヘカラス

第十條

當會所ノ資本金高ヲ増減スルハ株主ノ集會ニ於テ之レヲ

決定スヘシ但右増減ノ許可ヲ得テ之レヲ施行スルノ方法ハ其時ニ臨ニ各株主ノ衆議ニ任スヘシ

第十一條

當會所株主其所持ノ株式ヲ賣渡シ讓與ヘ又ハ質入レ或ハ借金ノ抵當ト爲サント欲スルニ豫メ其趣ヲ肝煎ニ申出テ其承諾ヲ受ケテ後之ヲ行フヘシ株主其所持ノ株式ヲ賣買授受スルニ當リテハ雙方連印ノ証書ヲ肝煎ニ差出スヘシ右証書ヲ差出シタル上ハ肝煎ニ於テ會所株主帳ノ姓名ヲ書改ムヘシ毎年ノ定式集會前半ヶ月間株式ノ賣買授受ヲ停止シ株式

帳ノ書改メヲ爲サ、ルヘシ
 株主ノ内死去或ハ分散ニ依リ其株式ヲ譲リ受ク可キ人々
 ニハ肝煎ノ要用トスル証據ヲ差出サシメ然ル後之ヲ株主
 トシテ株主帳ヲ書改ムヘシ
 右ノ手續ヲ爲サスシテ賣買授受シタル株券ハ會所ニ於テ
 其効ナキ者ト看做スヘシ

第十二條

當會所ニ於テ自ラ米賣買取引ヲ爲シ又ハ他人ノ依頼ヲ受
 ケテ仲買トナリ之ニ從事スル者ヲ以テ總テ仲買人ト稱ス
 ヘシ但他人ノ依頼ヲ受ケテ仲買ヲナシタルキハ其依頼人

ノ姓名住所等ヲ其時々肝煎ニ申告スヘシ
 又當會所ノ株主タルモノハ會所ノ役員タラサル時間ハ何
 時ニテモ肝煎ノ承認ヲ經テ仲買人トナルコトヲ得ヘシ
 總テ仲買人タルコトヲ欲スルモノ毎年何月何日ヨリ何月何
 日迄ニ書面ヲ以テ肝煎ニ申出スヘシ此書面ニハ姓名住所
 年齢商業等ヲ記シテ之レニ調印シ且二名以上証人ノ連印
 ヲ要スヘシ尤株主タル者ハ別段証人ヲ要スルニ及ハサル
 ヘシ

此仲買人タル者ハ營業上ニ於テ米商會所條例此定款申合
 規則ヲ遵守ス可キ旨ノ約定ヲ確實ニシ及ヒ違約ノ償辨ニ

供用スヘキ爲メ身元証據金トシテ金何百圓ヲ當會所ニ差
 出シ置ヘシ但此身元金ハ會所ニ於テ他ニ使用スル等ノコ
 無キカ故ニ利子等ヲ拂渡スコナカルヘシ
 當會所肝煎ノ承認ヲ經且身元金ヲ差出シ會所ノ仲買人ト
 成リタル上ハ會所ニ於テハ之ヲ社中ノ人ト視做スヘシ
 仲買人入社中ノ期限ハ一ケ年ト定メ毎年何月何日幾度ニ
テモ其月日ヲ定メシヲ以テ撰任ノ期トナスヘシ但期限中自己ノ都
 記載スヘシヲ以テ撰任ノ期トナスヘシ但期限中自己ノ都
 合ニ依リ退社セント欲スルキハ其旨趣ヲ書面ニテ肝煎ニ
 申出ツヘシ肝煎ハ右ノ書面ヲ少クモ十日間以上取引場ニ
 張出シ置キ會所ニ連帶シタル計算上ノ關係ナキヲ認タル

上ハ其者ノ退社ヲ許シ身元金ヲ返付シ証人ノ責任ヲ解ク
 ヘシ

仲買人若會所又ハ社中ノ人ニ對シ不正不實ノ所業アルヲ
 以テ其者ヲ除名スヘキ場合ニ至テハ肝煎ノ衆議ニ依リ其
 証人ヲシテ三十圓以下ノ過怠金ヲ差出サシムルコアルヘ
 シ

第十三條

仲買人タル者其名代トシテ手代ヲ會所ニ出サント欲スル
 キハ書面ニテ其者ノ姓名住所并ニ丁年ナルコト及委任ノ權
 限等ヲ詳細書面ニ認メ肝煎ニ申出テ其承認ヲ得テ後會所

ニ出スヲ得ヘシ但此書面ハ少クモ十日間以上取引場ニ
 張出シ置キ異存ノモノナキヲ認メタル上ニアラサレハ
 手代ヲ會所ニ出スヲ許サ、ルヘシ
 手代ノ姓名ハ其主人ノ姓名ト共ニ會所ニ揭示シ其主人ヨ
 リ別ニ報告ナキ時間ハ其手代ノ取結タル約定ハ都テ主人
 ノ引受タルヘシ
 主人若其代人委任ノ權ヲ解クモハ速ニ之ヲ肝煎ニ報知ス
 ヘシ然ル上ハ肝煎ニ於テ其趣ヲ會所ニ揭示シ其手代ノ姓
 名ヲ取消スヘシ
 手代若違約ヲ爲スモ其主人ニ於テ違約ノ償辨ヲナシタル

モハ其手代ハ會所ニ於テ取引ヲ爲スヲ禁シ主人ハ尙仲買
 人タルヲ得ルト雖モ若シ主人違約人トナリ社中ヲ除名セ
 ラル、モハ其手代タルモノモ會所ノ出入ヲ禁スルハ勿論
 タルヘシ

第十四條

當會所營業ノ總勘定ハ毎年一月七月兩度ト定ムヘシ
 當會所營業ノ總勘定ヲ爲シ税金并社費ヲ引去リ純益金一
 タ年一割以上ノ利子ニ當ルモハ其以上ノ幾分ヲ以テ準備
 金トナシ積置クヘシ但準備金ハ會所非常ノ災害ニテ損失
 ヲ受クルカ或ハ其他ノ事故ニ依リ株主ノ集議ニ於テ適當

トスルニ非サレハ之ヲ使用スヘカラス
 右準備金ハ時宜ニ依リ肝煎ノ決議ヲ以テ公債証書又ハ不
 動産等ニ替置クコトヲ得ヘシ
 利益金ノ内準備金ヲ引去タル残高ハ之ヲ株高ニ配當シテ
 各株主ニ割渡スヘシ
 當會所ニ損失アリテ資本金不足スルキハ頭取肝煎ヨリ其
 事情計算ヲ株主一同ニ公告シ其後ニ生スル所ノ利益ハ其
 資本高ノ不足ヲ補ヒ得ル迄ノ間配當ヲ差止ム可シ

第十五條

當會所ノ株主及役員等社中ノ諸規則ニ悖戾シ又ハ不信ノ

所業ヲナス可カラズ若シ之ニ違フ者アルキハ株主或ハ肝
 煎ノ集議ヲ以テ其輕重ニ從ヒ相當ノ過怠金ヲ付ス可シ又
 其事柄ニ依リテハ公裁ヲ仰クコトアルヘシ

第十六條

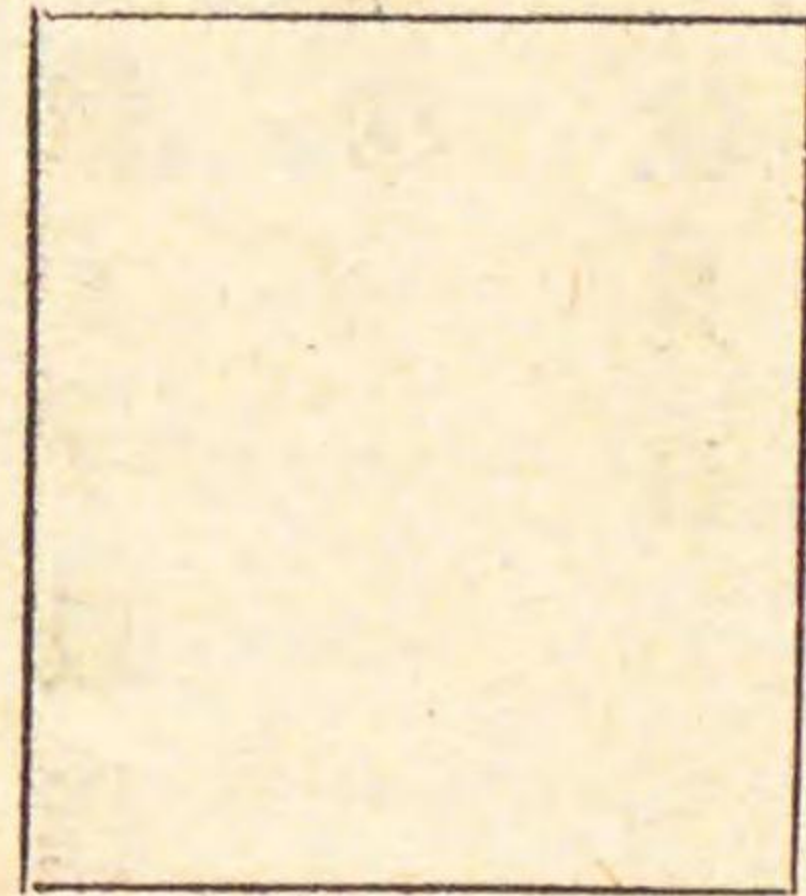
此定款ノ箇條ハ株主ノ議定ニ依リテハ何時ニテモ改正加
 除スルヲ得可シト雖モ必官ノ許可ヲ得テ施行ス可シ

右ノ條々ヲ取極タル証據トシテ各姓名ヲ記シ調印致
 シ候也

年號月日

株主 姓名 印

内務省
鈐印位置



(原本朱印)

第四號 申合規則書例

何々米商會所申合規則

此米商會所ハ明治九年八月太政官第百五號公布條例ノ旨
趣ヲ遵奉シ賣買上尙緊要ノ條件ニ於テ總員確守ス可キ規
程ヲ議定シタルモノ左ノ如シ

第一條

當會所ノ賣買ハ何地米何石建ノ事

但シ取組ハ壹石ノ直段ヲ相唱フヘシ

第二條

約定ノ期限ハ三個月ヲ越ス可カラサル事

但シ取引ノ期月ハ何々月又ハ毎月何々日ト定ムヘシ

第三條

賣買米ハ本場限り帳入トシテ本場後ノ賣買ハ翌日ノ本場
ニテ帳入ト定ムヘキ事

但シ定期賣買ノ帳入米ハ本日本場賣買掲札ノ平均直段
ヲ以テ定價トナシ又現場取引勘定ハ相對取組直段ヲ以

テスヘシ

第四條

約定證據金ハ之ヲ四様ニ分チ時價ノ昂低ニ依リ増減スヘキモノト雖モ當分ノ内左ノ通相定メ其出納時間ハ毎日午
前何時限リタルヘキ事

第一 本証據金建米何石ニ付何圓

是ハ本日賣買高滿何千石マテハ其割合ニ從ヒ翌日ノ
出納時限迄ニ入金スヘキ事

第二 半証據金全上何圓

是ハ本場并ニ二番商ヒニテ何千石以上ノ賣買ニ及フ

モノ即刻記載ノ割合金ヲ差入レ残り金高ハ翌日定刻
ニ入金スヘキ事

第三 追証據金全上何圓

是ハ賣買米約定ノ定價ヨリ壹石ニ付何拾錢又ハ前件
本証據金ノ定額ヨリ何割ノ高低アル時ハ幾度ニテモ
追証據金トシテ翌日定刻迄ニ差入レ且又右以外ノ高
低何錢何割ニ至ルキハ即日入金スヘキ事

第四 増証據金全上何圓

是ハ約定中何日間休業ノ場合及ヒ取引ノ期月何日前
ニ至リテ雙方之ヲ入金スヘシ但本日ヨリノ賣買ハ右

ニ準シ増証據金ヲ加ヘテ差入ルヘキ事

第五條

諸証據金ノ預リ証ハ各銘ノ通帳又ハ切手ヲ用フルト定メ
印稅規則ニ遵ヒ印紙貼附致スヘキ事

但シ通帳及ヒ切手ニ記載シタル金穀ハ一切他ニ使用ス
ルヲ許サ、ルヘシ

第六條

約定期限中其賣買米ヲ買戻シ又ハ賣渡シヲ要スルモノハ
雙方示談ノ上之ヲ肝煎ニ申立賣買受授ノ手續ヲ經テ其決
算ヲ乞フヘキ事

但シ非常ノ亂高下或ハ不穩當ノ所業ト見認ルキハ肝煎
ニ於テ其申立ヲ採用セサルコモアルヘシ

第七條

取引期日ニ至リテハ午後第何時限リ賣主ハ銘柄藏所付又
買主ハ代價ノ全部又ハ何部ヲ會所ニ差出スヘキ事

但シ本條部金ハ本場立テ留リヨリ前ニ繰戻シ何ケ日ノ
本場直段ヲ合セ之ヲ平均シテ其代價ノ計算ヲ立ツヘシ

第八條

受渡米ハ賣買主並ニ掛リ役員立合ノ上之ヲ検査シテ故障
無キ片ハ立合封印ヲ爲シ其藏出証書ヲ買方ヘ又其何部代

金ヲ賣方ニ相渡スヘキ事

但受渡中非常天災ノ損毛又藏敷等ハ兩持トナシ又何日
以外ハ買方ニ於テ之ヲ負擔スヘシ

第九條

買方二名以上ニシテ賣渡米各種ナルキハ其銘柄ヲ鬮引ニ
シテ受取ルヘシ若シ又大石數ナレハ鬮引ヲ以テ藏出ノ順
序ヲ定メ置キ雨天ノ外日々早朝ヨリ受渡シヲ爲スヘキ事
但シ受渡ノ節ハ會所附属ノ小揚ヲ立合セ枅廻シ引枅等
都テ市中ノ通例ニ依テ取扱ハシムヘシ

第十條

代米ノ受渡ハ都テ會所ニ於テ定メタル格附ニ從フヘシ又
受渡ノ藏所ハ會所附属ノ外某地一圓其他何橋ヨリ何川迄
枝川ハ何河岸通り何町以内ノ藏々ヲ相用フヘキ事

第十一條

受渡米検査ノ場合ニ於テ若シ不足アレハ之ヲ補ハシメタ
ル上米何石ニ付金何圓ノ割合ヲ以テ不足セシ俵數ノ過怠
金ヲ出サシメ買方ニ相渡スヘキ事

第十二條

不熟風災腐化等ノ惡米其他渡方ニナラサル程ノ米症ナル
時ノ代米ハ都テ何日限り差出ス可シ若シ之ヲ怠ル時ハ何

石ニ付何圓充ノ過怠金ヲ差出サシメ之ヲ買方ヘ渡スヘキ事

第十三條

銘柄違并ニ藏所違ヒハ米何石ニ付金何圓充ノ過怠金ヲ買方ニ渡サシムヘキ事

第十四條

賣買主ニ於テ若シ定規ノ證據金ヲ怠リ又ハ銘柄藏附及ヒ何部金等ヲ定刻ニ差出サスシテ違約人トナリタル時賣方ノ違約ナレハ買方ニ於テ其石高ヲ市場ニ買求メ又買方ノ違約ナレハ賣方ニ於テ之ヲ市場ニ賣拂ヒ其不足金并ニツ

レカ爲メ蒙リタル損失ヲ合セ其者ノ證據金身元金ヲ以テ之ヲ償ハシメ尙相手方ヲ満足セシムル能ハサル時ハ公裁ヲ仰クヘキ事

第十五條

前條ノ處分ニ及フモノハ直チニ之ヲ除名シ若其身元金アル所ハ之ヲ沒収スヘキ事

第十六條

會所ノ手数料ハ賣買米何石ニ付當分左ノ通相定メ又仲買口錢ハ其頼人トノ示談ニ任スト雖凡手数料何分ノ割ニ除ユ可カラサル事

定期取引手数料何拾錢
現場取引手数料何拾錢

第十七條

毎日營業ノ時間ハ午前第何時ヨリ何時迄ヲ本場立會ト定
メ午後第何時ヨリ何時迄ニ番商ヒヲ執行致スヘキ事
但シ金方出納ノ爲メ延縮スルハ此限ニアラサル可シ

第十八條

御國祭其他毎月何ノ日休業タルヘキ事

但シ休業日ノ出納ハ次ノ立會定刻何時限タルヘシ

第十九條

此申合規則ニ於テ實際上若シ不都合有之節ハ肝煎ノ衆議
ヲ以テ之ヲ補除改正シ其都度官ノ許可ヲ得テ施行スヘキ
事

右取極メタル申合規則ハ會所營業上何レモ確守スヘ
キ證據トシテ株主并ニ仲買一同記名調印スヘキモノ
ナリ

年號月日

株主 姓名 印

仲買 姓名 印

第五號 開業免狀ノ雛形

開業免狀

右違算無之候事 (一)印ハ原本朱字

年號月日

頭取姓名印

檢査人姓名印

支配人姓名印

第七號 計算表書例

明治一年前後半季計算表

何々米商會所

手 數 料	入 額
若 干	
稅 金	出 額
若 干	

差引

總 計	何 々	株 金 準備 金 繰 替 高	物 品 賣 拂 代	沒 收 金	過 怠 金	利 息 金
々	々	々	々	々	々	々
々	々	々	々	々	々	々
	何 々	繰 替 金 拂 入 高	建 築 修 繕 或 ハ 地 料	社 費	不 時 賞 與	役 員 俸 給
々	々	々	々	々	々	々
々	々	々	々	々	々	々

純益金若干

内 金若干 株主へ配當スへキ分 但一株ニ付 金何圓何錢

別途計算

資本株金若干

積立準備金若干

金 々 々 々	金 々 々	金若干 現金若干 公債証書	地方廳或ハ銀行 へ預ケ高	金若干 現金若干 公債証書	銀行其他へ預ケ 高
櫃中現在高	高 建築費其他繰替	金 々 々	金 々 々	櫃中現在高	公債証書或ハ不 動産

第八號 株主仲買人姓名表
株主仲買人姓名表

右之通違算無之候事

元身金若干	金若干	金	元身金若干	商會所々有物	商會所々有物
公債証書	公債証書	現金	地所	地所	若干坪
建築費其他繰替	地所	建物	若干坪	若干坪	若干坪

年號月日

頭取姓名印
檢査掛姓名印
出納掛

報告ノ書例

(別紙)

用紙厚紙 五寸幅 一寸五分

<p>何々米商會所何役</p> <p>籍</p> <p>何ノ誰</p> <p>年號何年何ヶ月</p>	<p>印鑑 (印)</p> <p>宿所</p>
--	-------------------------

〔内務省達〕九年九月十一日 本年八月太政官第五百公布米商會所條例ニ照準シ會所創立候ニ付而者條例第三條第三節及

當省本年甲第廿九號布達成規第二條第一節二節之手續ヲ以資本金總高之内三分二ニ當ル公債證書又ハ現金ヲ地方廳或ハ國立銀行ニ預ケ候筈ニ付現品差出候ハ、其種類相當ノ請取証書ヲ與ヘ地方廳ハ長官并其掛リノ者銀行ハ頭取支配人勘定方等立會封印シ容易ニ之ヲ轉動使用スルコトヲ得サラシムルノ手續ヲ爲シ置ク可シ且右預リ現金ハ別ニ利子等ヲ拂遣スニ不及候尤別段ノ約定ニ據リ預リタル時ハ其法方約定ノ旨趣ヲ詳記シ當省ヘ可届出候此旨相達候事

但銀行ヘハ其所在管轄廳ニ於テ可相達事

〔内務省指令〕九年八月十九日愛媛縣伺 本年太政官第百五號ヲ以テ米

商會所條例公布有之候ニ付左ノ條件相伺候也

一米商會所發起人タルラント欲スルモノハ父子兄弟等

ヲ論セス一戸中ヨリ幾人タリモ其志願ニ任セ可然

哉將タ戸主ニ限り候哉(第一條)

但子弟等ニテ發起人タルヲ得ヘキ儀ニ候ハ、其

年齢丁年ノモノニ限ルヘキ哉

一株主ノ内發起人タルモノハ其所持ノ株式ヲ賣渡讓

與ヘ又ハ質入抵當トナスコヲ得サル儀ニ候哉(第二

條)

九月十八日伺之趣ハ左ノ通可相心得事

第一條 米商會所發起人株主ハ戸主ニ限り候事

但發起人年齢ハ制限無之事

第二條 發起人株式賣買等ハ一般株主ト同様タルヘキ

事

第五卷 銀行

第一章 銀行設立

第一款 總則

(指令)九年六月二十日大藏省伺資本金減少ノ儀第五國立銀行ヨリ別紙ノ通願出候ニ付篤ト遂稽查候處右ハ元金五拾萬圓ノ内貳拾萬圓相減シ殘額三拾萬圓ヲ以テ營業取續度趣ニ有之候處國立銀行條例第六條ニ凡國立銀行ハ人口拾萬人以上都會ノ地ニ於テハ五拾萬圓以下ノ元金ニテハ創立スルヲ許サスト有之即チ右款項ニ抵觸致シ甚不都合ノ儀ニ付難聞届筋ニハ候ヘ共該銀行ノ儀

ハ營業上ノ運用充分ニ無之隨テ利益モ僅ニ過キサレ
 ハ到底此儘ニテハ永續ノ儀モ如何ト被存候ニ付特別
 ノ廉ヲ以テ願意御裁下相成度(別紙略ス)
 七月十二日 伺之趣ハ今般銀行條例改正(後ニ出)ノ通可相心得
 事

〔指令〕九年六月二十日大藏省伺 銀行ノ儀ハ財貨ノ有無ヲ通スル所以
 ニシテ民間融通ノ上ニ於テ欠ク可カラサルノ設タル
 ハ贅スルヲ俟タス然ルニ國立銀行ノ如キ其紙幣金貨
 ヲ以テ交換スルノ條例ニシテ今日ニアツテハ其營業
 最モ難シトス抑我國開化日猶ホ淺ク器械備ハラズ産

業振ハス故ニ貿易上物産輸出入ノ差違相償ハス之カ
 爲メ我金貨モ其權利ヲ全有スル能ハス加フルニ外國
 一般金位ノ價格ヲ騰貴シ殆ト一ノ物品トナシテ賣買
 スルニ至レリ是以テ銀行創立ノ主旨ト實地營業ノ方
 法ト己ニ相反シ今日ノ困難ヲ生ヌ云々然ルニ銀行ヲ
 シテ猶ホ舊制ニ據ラシムル時ハ其營業日ニ涸渴ニ屬
 シ終ニ頽覆ヲ俟ツノ外無之今其制ヲ米國ニ法リ該國
 紙幣條例中聊カ斟酌ヲ加ヘ從來金貨兌換ノ制規ヲ一
 變シ之ヲ通貨交換ノ法方ニ代ヘ銀行ノ本務ヲ盡サシ
 メ加之巨萬ノ公債証書散布スルカ爲メ將來其價格下

低ノ憂ナキヲ保チ難シ由テ該証書ヲ抵當トナシ銀行
 紙幣ヲ發行セシムルトキハ証書價格下低ノ憂ヲ助ケ
 銀行ノ營業モ益旺盛ニシテ民間ノ融通ヲ開キ物産蕃
 殖ノ資本ヲ輔ケシメシコ必然ニ可有之金貨兌換ノ法
 方ハ國歩開進ニ應シ徐々之カ制規設ケ候方可然因テ
 國立銀行條例ヲ改定シ舊條例ハ廢止相成候様仕度別
 冊條例御布告按トモ併セテ相伺

七月十六日 伺之趣聞届候事(改定銀行條例第二章ニ出)
 日指令

第二款 金銀取扱規則

〔布告〕九年四月十九日第五十七號 銀行又ハ爲替方又ハ兩替屋又ハ官廳ニ
 於テ備入候鑑定人等金銀銅貨紙幣ヲ鑑定ノ節贋造品取扱
 規則左ノ通相定候條此旨布告候事

贋造金銀銅貨紙幣取扱規則

第一條 新金銀銅貨紙幣等贋造品ハ詳ニ其原由及持主ノ
 宿所姓名ヲ尋ネ其面前ニ於テ斷截シ速ニ其最寄警察出
 張所或ハ屯所或ハ區戶長ニ差出シ其顛末ヲ申立ツヘシ
 若シ官廳ニ關スルキハ該廳ヨリ警察官署ニ通知スヘシ
 但持主立會ハサル時ハ必ス代理人ヲ差出サシムヘシ

遠隔ノ地ヨリ遞送シ來レル者ハ立會人ヲ取リテ之ヲ
斷截シ速ニ遞送主ヘ報告スヘシ

〔增〕大藏省達日乙第四十九號本年第五拾七號ヲ以御頒

布相成候贋造金銀取扱規則中第一條但書ノ趣有之候

ニ付テハ當省并各地出納寮出張所共假納金ノ内納先

府縣ノ官員護送有之分ハ該員立會處分可致筭勿論ニ

候得共内國通運會社便等ヲ以遞送ノ分ハ別ニ立會可

致者無之候間右ノ分ニ限リ納先官員立會ヲ要セス該

所ノ官員而已立會斷截取計其品糊封ノ印紙等相添納

先ノ府縣廳ヘ通達可致且不足金有之節モ右同様取計

可致候條此旨相達候事

第二條 鑑定ヲ誤リ正貨紙幣ヲ斷截シタル時ハ改人ヨリ

持主ヘ其斷截シタル正貨紙幣ヲ其同等ノ品ト引換相渡

シ其斷截シタル紙幣ハ事由ヲ詳記シテ管轄廳ヘ引換ヲ

乞ヘシ

〔指令〕九年六月十本年第五十七號ヲ以テ公布相成候贋造

金銀銅貨紙幣等取扱規則第二條中鑑定ヲ誤リ正貨紙

幣ヲ斷截シタル時ハ其紙幣ハ事由ヲ詳記シテ管轄廳

ヘ引換ヲ乞フヘシト有之正貨幣引換方ノ儀ハ何等御

載示無之右ハ固ヨリ致誤鑑定候者ノ負責ニテ同等ノ品

ト引換候事ニ付於政府交換致シ不遣可然ト存候然ル
 ニ更ニ詮議相盡シ候處右地金ハ貨幣條例第四條但書
 ニ掲載ノ通り金ハ其高五拾オンス銀ハ千オンス以上
 ニ無之テハ受取不申成規ニ有之自然少數ノ正貨幣ヲ
 誤截致シ右ハ地金ト見做シ於政府交換不至テハ鑑定
 者ノ難澁ハ申迄モ無之同一誤鑑候者ヲ紙幣ハ交換シ
 正貨幣ハ交換セサル事ニ相成紙幣ハ全ク無價ニ歸シ
 正貨ハ猶地金ノ價ヲ有スルノ差別有之トハ申ナカラ
 一般發行ノ貨幣ニテ彼是不公平ニハ有之間敷哉去連
 斷截シタル金銀貨ヲ其儘交換致シ候テハ政府ノ御損

失ハ勿論倉卒截斷ノ弊ヲ生スヘク旁以テ昨八年當省
 乙第三十號達(初版第四卷第一章第一款)流通不便ノ金銀貨幣交
 換手續書中第三條ノ種類ニ可屬モノト見做シ右誤鑑
 斷截ノ正貨幣ニ限リ夫々交換取計可然存候(下略)

七月十四日 伺之通

(增)大藏省達(九年七月二十六日乙第六十八號)本年第五拾七號ヲ以テ公布
 相成候贗造金銀銅貨紙幣等取扱規則第貳條鑑定ヲ誤リ
 斷截シタル正貨幣ノ儀ハ昨八年當省乙第三拾號達(初版第四卷第一章第一款)流通不便ノ金銀貨幣交換手續書ニ據リ金貨
 并貿易銀貨ハ第七條ニ準シ五拾錢以下ノ銀貨并銅貨ハ

第九條ニ準シ鑑定者ニ限リ交換可取計尤右交換セシ各
 貨幣ハ同書第拾條拾壹條ノ通り處分可致此旨相達候事
 但各廳於テ鑑定方申付置候銀行又ハ爲換方ノ者誤鑑
 斷截致シ候節ハ一時他ノ鑑定人雇入レ令秤量候ハ勿
 論候ヘトモ萬一他ニ可雇入者無之節ハ各廳ニ於テ直
 ニ秤量致シ成規ノ通り手数料取立毎年五月限り明細
 書相添當省へ上納可致候事

第三條 若シ正贋定メ難キモノ有之節ハ其事由及持主ノ
 宿所姓名ヲ分明ニ記載シ持主ノ面前ニ於テ其品ヲ封シ
 持主ヲシテ之ニ封印セシメ鑑定者ヨリ管轄廳へ差出ス

へシ然ル時ハ該廳ニ於テ詳細吟味ノ上全ク正品ニシテ
 其製充分ナラス通用ノ際人民ノ疑ヲ生スヘキモノハ直
 ニ持主へ引換渡スヘシ其贋造品ハ第一條ニ依ル

第四條 古金銀貨幣贋造品ハ持主又ハ代理人ノ面前ニ於
 テ斷截シ直ニ其持主又ハ代理人へ還付スヘシ

第五條 贋造ヲ知ルト雖モ斷截セスシテ持主ニ還付シ又
 ハ申立ヲ等閑ニスル者等ハ相當ノ處罰ヲ爲スヘシ

〔布達〕九年五月十八日大 本年四月太政官第五拾七號公布贋
 藏省甲第拾貳號
 造金銀銅貨紙幣取扱規則第一條新金銀銅貨紙幣等贋造
 品ハ其持主ノ面前ニ於テ斷截云々ト掲載有之然ル處新

紙幣ノ儀ハ百圓ト五拾圓拾圓ト五圓貳圓ト壹圓半圓ト
 貳拾錢拾錢何レモ豎横ノ寸法同様ニ付數字描改シ五圓
 札ヲ拾圓ニ拾錢札ヲ貳拾錢或ハ半圓ニ變換セシ類比々
 有之右ハ素ヨリ贗製ノ品トモ異リ斷截候テハ不都合ニ
 付該紙幣發見候ハ、裏面ノ紋色別紙ノ通各種毎ニ暨ヒ
 描改ノ証ヲ所持人へ明示シ其儘出張所等へ差出同所於
 テハ右紙幣ノ原因其外取糾處分相濟候ハ、引揚切ニ取
 計紙幣寮へ相納候儀ト可相心得此旨布達候事

- 百圓札 裏面淡紅地ニ紋色深紅
- 五拾圓札 同 淡青地ニ同 深青

- 拾圓札 同 淡紅地ニ同 紫
 - 五圓札 同 淡黑地ニ同 青
 - 貳圓札 同 橙黃地ニ同 茶褐色
 - 壹圓札 同 淡青地ニ同 深青
 - 半圓札 同 白地ニ同 淡褐色
 - 貳拾錢札 同 白地ニ同 青
 - 拾錢札 同 白地ニ同 綠
- (增)大藏省達乙九年八月十八日 金穀等借用証書讓渡ノ儀ニ
 付當九年第九拾九號公布(民法第三章第五款第九卷)ノ趣モ有之
 候ニ付テハ銀行或ハ爲換方へ預ケ金又ハ諸貸下ケ金ニ

對シ取置候抵當品ノ内貸金証書差出候節ハ其借主ニ於
テ承諾ノ証書爲差出候上抵當ニ請取置候儀ト可相心得
此旨相達候事

但從前ヨリ取置候貸金証書ノ分モ本文ノ通り相心得
將來不都合無之様可取計候事

(增)大藏省達(九年九月九日)從來於各廳銀行又ハ爲替方ニ金
錢出納爲取扱候條約書ノ内無期限ノ向モ有之候處本年十
月ヨリ向滿二ケ年ヲ限り期限相定メ更ニ左ノ个條ヲ追加
可致隨テ抵當證書ノ義モ右ニ準シ地所建物等明治六年第
十八號(民法初版第九卷第)及ヒ八年第四百四十八號公布(民法
第二章第一款ニ出)及ヒ八年第四百四十八號公布(民法

版第九卷第二)ノ通り年限判然記載可致此旨相達候事
章第四款ニ出

條約追加

一本約ハ滿二ケ年ヲ以テ限リトナス滿期ニ至リ預ケ金ノ
決算ヲ爲シ有余ノ金ハ悉皆完納スヘシ

但年限中ト雖モ事故アルキハ何時ニテモ解約スルコ
ト得ヘシ又々滿期ノ後ト再約スルキハ其節更ニ協議

前スヘシ

第三款 府縣貢納金爲替

(增)大藏省達)九年十二月十一日乙第百貳號 金銀出納取扱方銀行又ハ爲替方へ申付有之向ニテ各所へ支店爲相設候共給料ノ儀ハ明治七年當省第六十貳號達ノ通り一ケ年金千五百圓ノ外不
 下渡成規ニ候處詮議ノ次第モ有之候ニ付來明治十年一月一日ヨリ右支店一ケ所ニ付壹ケ年更ニ金三百六十圓宛定額常費トシテ月割ヲ以可下渡候條右ノ心得ヲ以テ條約致シ候上可届出候此旨相達候事

但爲替金辨利ノ爲メ東京或ハ大坂等へ支店ヲ相設候分ハ此限ニ非ス全ク管内支廳へ屬スル支店ニ限リ候儀ト

可相心得候事

九年十一月廿八日大藏省原伺 府縣爲替方給料ノ儀ハ明治七年當省第

六十二號達ニ寄一ケ年金千五百圓ノ月割ヲ以テ給與候外手代給料其他納拂等ニ關スル諸費ハ一切不下渡成規ニ有之候處廢合縣ノ爲メニ更ニ支廳ヲ設置候ニ付テハ爲替方へ命シ更ニ支店ヲ置カセ又ハ舊縣ノ爲替方ヲ引續支店ト見倣シ支廳ノ金錢爲替等爲取扱不出候ニ付熟考候處各省於テ所轄ノ製鍊所裁判所又ハ鎮臺學校ト雖モ相應ノ手數料下渡有之然ルニ府縣爲

替方ニ限リ何ケ所支店爲相設候_ニ右千五百圓ノ内ヲ
分與爲致候_モ不都合ニ相聞且其不足ハ眼前ニ相見ヘ
旁以左ノ割合ノ通増給御允許可然哉相伺

府縣支廳爲替方給料内譯

一金拾五圓

手代一人給料

一金七圓五拾錢宛

同 二人給料

一ケ月分

金三十圓

一ケ年分

金三百六十圓

右ノ外藏番給料其外筆墨等ノ諸費ハ千分一手數料
ヲ以宛置候事

十二月七日
指令 伺ノ趣聞届候事

第二章 銀行條例

〔改〕布告〕九年八月一號 明治五年十一月 第三百四拾九號布告 國立
 銀行條例ノ儀詮議ノ次第有之別冊ノ通改正致シ舊條例ハ
 自今相廢シ候條新ニ國立銀行ヲ創立セントスル者ハ勿論
 從來舊條例ヲ遵奉シテ創立シタル者ト雖モ右改定條例ニ
 準據シ大藏省へ出願ノ上其免許ヲ受ケ候様可致此旨布告
 候事

國立銀行條例目次

○第一章 第一條ヨリ 銀行創立ノ方法。創立証書
 第十六條ニ至ル
 銀行定款ノ差出方及ヒ開業免狀ノ下附並ニ

○第二章

諸役員撰任方法等ノ事ヲ明カニス
 第二十七條ヨリ 銀行資本金ノ制限。公債
 第二十七條ニ至ル
 証書銀行紙幣交收ノ割合並ニ其手續及ヒ引
 換準備金等ノ事ヲ明カニス

○第三章

第二十八條ヨリ 株式ノ分割。資本金入金
 第二十四條ニ至ル
 ノ割合。株式沒入。株主牒ノ記入。株式ノ賣買及
 ヒ資本金増減等ノ事ヲ明カニス

○第四章

第四十五條ヨリ 銀行紙幣ノ製造及ヒ種
 第五十一條ニ至ル
 類。其通用ノ能力。引換場所及ヒ燒捨等ノ事ヲ
 明カニス

○第五章

第六十一條ニ至リル 銀行營業ノ本務。公債証

書其他ノ賣買並ニ貸附金ノ制限。利足ノ制限。

銀行紙幣並ニ株式抵當ノ制禁及ヒ預リ金準

備等ノ事ヲ明カニス

○第六章

第六十二條ニ至リル 銀行名號ノ掲牌。社印ノ

書體。諸手形ニ於ケル銀行ノ負責。所有物ノ明

細牒及ヒ營業時間等ノ事ヲ明カニス

○第七章

第六十七條ニ至リル 株主總會ノ定規並ニ格

段決議ノ順序。諸簿冊ノ點檢及ヒ検査ノ手續。

諸報告差出方等ノ事ヲ明カニス

○第八章

第七十九條ニ至リル 利益金分配ノ方法及ヒ積

金割合ノ規定ヲ明カニス

○第九章

第八十一條ニ至リル 銀行ハ官廳ノ爲換方ニ

從事スル事並ニ外國銀行ト聯合スヘカラサ

ル事ヲ明カニス

○第十章

第八十三條ニ至リル 銀行役員職務上一般ノ

制禁及ヒ其負責ノ事ヲ明カニス

○第十一章

第八十八條ニ至リル 紙幣及ヒ諸手形類ノ發

行並ニ銀行紙幣ノ贗造描改及ヒ其版板ノ彫

刻等禁止ノ事ヲ明カニス

- 第十二章 第九十二條ヨリ 銀行ニ於テ其紙幣引換ヲ拒ミシ時ノ處分。特例監督役跡引受人等ノ取扱方並ニ公債証書ノ沒入及ヒ紙幣引換等ノ手續ヲ明カニス
- 第十三章 第四百八條ニ至ル 銀行平穩鎖店ノ手續及ヒ其紙幣引換方等ノ事ヲ明カニス
- 第十四章 第九條ヨリ 銀行訴訟ノ取扱及ヒ罰金處分ノ事ヲ明カニス
- 第十五章 第一百一條 銀行納稅ノ事ヲ明カニス
- 第十六章 第一百十二條 條例ノ更正及ヒ廢止ノ事ヲ明

目次 畢

カニス

國立銀行條例

國立銀行ハ政府ヨリ發行スル公債証書ヲ抵當トシテ之ヲ大藏省ニ預ケ紙幣寮ヨリ銀行紙幣ヲ受取り引換ノ準備金ヲ設ケ之ヲ發行シ以テ其業ヲ營ムモノナリ今之ヲ創立スルニ付大日本政府ニ於テ制定シタル條々左ノ如シ

- 第一章 銀行創立ノ方法。創立証書銀行定款ノ差出方及ヒ開業免狀ノ下附並ニ諸役員撰任方

銀行創立
請願ノ件

法等ノ事ヲ明カニス

第一條 此條例ヲ遵奉シ國立銀行ヲ創立セント欲スル者
ハ何人ヲ論セス(外國人ヲ除クノ外)五人以上結合シタル
人々成規第一條ニ掲クル所ノ手續ヲ以テ其創立願書ヲ
大藏省ノ紙幣寮ヘ差出スヘシ紙幣頭之ヲ檢按シ相當ト
思慮スルニ於テハ之ヲ大藏卿ニ稟議シテ其銀行創立証
書及ヒ銀行定款ノ差出方ヲ命スヘシ

銀行ヲ創立
スルノ摸範

第二條 右紙幣頭ノ命ヲ受ケタル人々ハ各其姓名ヲ創立

証書ニ記入シ諸般ノ手續ヲ經テ其創立証書ニ紙幣頭ノ
承認許可ヲ受ルニ於テハ此條例ニ規定セル箇條ヲ遵奉
シ以テ國立銀行ヲ創立スルヲ得ヘシ而シテ其創立証書
ニ掲載スヘキ件々ハ左ノ如シ

第一 銀行ノ名號

但シ此名號ハ紙幣頭ノ承認許可ヲ得テ之ヲ
公稱スヘシ

第二 銀行ノ本店及ヒ支店(若シ之アラハ)ヲ置クヘキ
場所

第三 銀行ノ資本金額及ヒ株數

第四 銀行營業ノ年限

第五 株主ノ姓名。住所。屬族。職業(若シ之アラハ)及ヒ其引受ケタル株式ノ番號。箇數

第六 此創立証書ハ此條例ヲ遵奉シ銀行ノ事業ヲ營ナミ株主一同ノ利益ヲ謀ルタメ取極メタル旨

創立証書ノ印紙貼用並ニ其他ノ件

第三條 右創立証書ハ其株主等各記名調印シ之ニ壹錢ノ印紙ヲ貼用シ其管轄地方長官ノ奥書鈐印ヲ受タルモノタルヘシ斯ク從事シタル創立証書ハ當人ハ勿論其相續人後見人タル者ニ於テモ右創立証書ノ箇條ヲ確守シ此

條例成規ノ旨趣ヲ遵奉スル者トスヘシ

創立証書更正ノ件

第四條 右創立証書ノ箇條ヲ更正スルニハ其社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認許可ヲ得ルニ於テハ之ニ從事スルコトヲ得ヘシ但シ其事件ハ即チ資本金ノ増減及ヒ本店轉移或ハ支店開設等ノ如キ是ナリ而シテ右ノ如ク更正シタル箇條ハ最初右創立証書中ニ記載セシ箇條ト同シク確守スヘシ且右ノ箇條ハ其創立証書ノ本紙正寫ノ別ナク之ヲ綴込ニ又ハ添附シ置クヘシ
但シ右ノ外創立証書中ノ箇條ヲ更正スルコトヲ得サル

定款ノ印紙貼用
並ニ其他ノ件

ヘシ

第五條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ハ右創立證書ニ必ス
銀行定款ヲ添フヘシ而シテ此定款ハ即チ成規第六條ニ
掲クル所ノ雛形ニ準據シ其箇條ヲ悉皆(又ハ若干)記載シ
創立證書ト同様株主一同之ニ記名調印シ壹錢ノ印紙ヲ
貼用シタルモノタルヘシ

但シ此定款ハ唯紙幣頭ノ承認ヲ得紙幣寮ノ官印ヲ受
クルノミニシテ其管轄地方長官ノ奥書鈐印ヲ乞フニ
及ハサルヘシ

定款ノ箇條ヲ更正増
加及ヒ廢止スルノ件

第六條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ハ社中ノ格段決議ヲ
經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ銀行定款中ニ掲ケタ
ル諸款ヲ更正増補シ及ヒ之レヲ廢止スルヲ得ヘシ而
シテ右ノ如ク更正増補シタル箇條ハ最初右定款中ニ掲
載セシ箇條ト同シク確守スヘシ且右ノ箇條ハ其定款ノ
本紙正寫ノ別ナク之ヲ綴込ニ又ハ添附シ置クヘシ

創立證書並ニ定
款差出方ノ件

第七條 創立證書並ニ銀行定款ハ本紙壹通正寫二通都合
三通宛ヲ製シ而シテ創立證書ヘ其管轄地方長官ノ奥書

鈐印ヲ受ケ銀行定款ト共ニ之ヲ紙幣頭へ差出スヘシ
開業免狀
下附ノ件

第八條 紙幣頭ハ右創立証書及ヒ銀行定款ヲ領受シ其銀
行株主等此條例第三十條ニ規定スル所ノ割合ヲ以テ資
本金ノ入金ヲナセシヤ否ヤノ狀實ヲ検査シ且株主等ノ
正不正其他百般ノ事務ヲ視察シ不都合アルニ非レハ之
ヲ大藏卿へ稟議シ開業免狀ヲ下附スヘシ
但シ創立証書銀行定款共本紙ハ記録寮ニ納メ正寫壹
通ハ紙幣寮ノ簿冊ニ綴込ニ壹通ハ紙幣寮ノ官印ヲ鈐
シテ開業免狀ト共ニ之ヲ其銀行へ下附スヘシ

銀行開
業ノ件

第九條 銀行ハ右ノ開業免狀ヲ得テ始テ一團ノ會社トナ
リ何々國立銀行ト公稱シ此條例成規ニ規定シタル箇條
ヲ履行シテ國立銀行ノ事業ヲ經營スルヲ得ヘシ

開業免狀。創立証書。定款
ハ確証トセラル、ノ件

第十條 此條例ニ從ヒ紙幣頭ノ記名調印シタル開業免狀。
創立証書。銀行定款ハ何レノ裁判所何レノ官廳ニ於テモ
之ヲ正確ナル證據トシテ採用セラル、ヲ得ヘシ

創立証書並ニ定款ノ寫ヲ
各株主へ付與スルノ件

第十一條 創立証書。銀行定款ノ寫又ハ版本等(用意分配ノ

手續了ルノ後各株主ヨリノ要需アルニ於テハ銀行ニ於テ定ムル所ノ代價ヲ以テ之ヲ付與スヘシ若シ銀行右付與ノ事ヲ怠慢スルニ於テハ銀行ハ其怠慢時間一日ニ付五圓ニ踰エサル罰金ヲ納ムヘシ

營業期限並ニ延期ノ件

第十二條 此條例ヲ遵奉シテ創立スル銀行ハ鎖店其他ノ事故アルニ非レハ開業免狀ヲ受ケシ日ヨリ二十箇年ノ間其營業ヲ取續クコトヲ得ヘシ右期限ヲ過キ尙ホ營業セント欲スルニ於テハ其趣ヲ紙幣頭ヘ申請シテ更ニ免許ヲ受クヘシ

社號並ニ社印用法ノ件

第十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役等ハ開業免狀ヲ得ルノ日ヨリ社印ヲ刻シ諸役員ノ印信ト共ニ大藏省ノ紙幣寮國債寮出納寮ノ三寮ヘ差出スヘシ而シテ銀行ノ諸出願ヲ始メ訴訟。約定。保証及ヒ報告。往復其他一切ノ文書ニ至ルマテ都テ其社號ヲ用井社印ヲ鈐スヘシ但シ報告。約定。保証等ノ如キ文書ニハ頭取取締役及ヒ支配人ノ名印ヲモ加用スヘシ

銀行ノ諸役員撰任ノ件

第十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ頭取取締役ヲ始メ支

配人。書記方。出納方。計算方。簿記方。其他適宜ノ役員ヲ撰任
シ其職制權限進退及ヒ頭取。取締役交代ノ手續等諸般ノ
規約ヲ取極メ之ヲ銀行定款中ニ掲載スヘシ

取締役所持
株式ノ制限

第十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ取締役ハ必ス自力ヲ
以テ成規第五十一條ニ規定スル所ノ株數ヲ所持シタル
者ニシテ其總員ハ五人以上(内壹人ハ頭取)タルヘシ而シ
テ其四分ノ三ハ其銀行創立ノ地ニ於テ上任前一箇年以
上在住シタル者ニ限ルヘシ

頭取取締役
誓詞ノ件

第十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役ハ上任ノ
節ニ其地方長官ノ面前ニ於テ誓詞ヲ爲シ其事務ヲ施行
スルニ忠實公平ヲ以テシ且此條例中ノ要旨ニ決シテ背
戻セサル旨ヲ認メ其管轄地方長官ノ奥書鈐印ヲ受ケ之
ヲ紙幣頭へ差出スヘシ紙幣頭ハ之ヲ領受シテ寮中ノ簿
冊ニ綴込ムヘシ

○第二章 銀行資本金ノ制限。公債証書銀行紙幣交收
ノ割合並ニ其手續及ヒ引換準備金等ノ事
ヲ明カニス

資本金額
制限ノ件

第十七條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ノ資本金額ハ拾萬

圓ヨリ下ル可カラス尤人口拾萬人以上ノ地ニ於テハ貳

拾萬圓未滿ノ資本金ヲ以テ創立スルヲ許サス

但シ時宜ニヨリ紙幣頭差支ナシト思考シテ大藏卿ヘ

ノ稟議ヲ經ルニ於テハ五萬圓以上拾萬圓未滿ノ資本

金ニテモ創立ヲ許スコトアルヘシ

公債証書
納方ノ件

第十八條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ハ其資本金額十分

ノ八(即チ拾萬圓ナレハ八萬圓)ヲ政府ヨリ發行スル所ノ

公債証書ニテ此條例第二十二條ニ掲クル所ノ割合ニ從

ヒ實價(即チ市中賣買ノ時相場ニシテ紙幣頭ノ時々指定

スル所)ヲ以テ之ヲ出納寮ヘ預クヘシ尤右公債証書ハ四

朱以上利付ノ者(即チ新公債証書。金札引換公債証書。秩祿

公債証書及ヒ爾後政府ヨリ發行スヘキ四朱以上利付ノ

公債証書)ニ限ルヘシ

但シ右ノ公債証書市中賣買ノ相場低下スル時ハ紙幣

頭ハ更ニ之ヲ其銀行ニ命シテ其不足ハ猶ホ他ノ公債

証書ヲ納メテ本條規定スル所ノ割合額數ニ滿タシム

ヘシ

公債証書ノ管守並
ニ當籤處分ノ件

第十九條 右公債証書ハ此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行
スル紙幣ノ低當ナルヲ以テ出納頭ハ其銀行永續中ハ正
ニ之ヲ預リ置クヘシ而シテ若シ此公債証書ノ内國債寮
ニ於テ施行スル所ノ公債支消ノ抽籤ニ當ル者アレハ銀
行ハ他ノ公債証書ヲ納メテ之ヲ引換フヘシ

銀行紙幣交換
準備金ノ制限

第二十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其資本金額十分ノ二
ヲ通貨ヲ以テ銀行ニ積置キ前條ニ掲クル所ノ公債証書
ノ代リトシテ紙幣寮ヨリ受取ル銀行紙幣ノ引換準備ニ
充ツヘシ故ニ其銀行紙幣發行ノ際ニ於テハ常ニ其流通

高ノ四分一ノ割合ヲ以テ準備金ヲ現存スルヲ定度トス
尤銀行紙幣發行ノ増減ニ隨ヒ其準備通貨モ亦々便宜之
ヲ増減シ之ヲ資用スルヲ得ヘシ
但シ右紙幣ノ引換多クシテ四分一ノ準備ニテ引換方
差支フルコアレハ別ニ通貨ヲ加ヘテ之ヲ引換ヘ決シ
テ之ヲ拒ミ又ハ之ヲ怠ルヘカラス

資本金ノ増減ニ從ヒ引換ノ準備
金等モ其割合ニ準スルノ件

第二十一條 此條例第四十條四十二條ニ掲クル所ノ手續
ヲ以テ資本金額ヲ増減スルコアルニ於テハ前條ニ掲ク
ル所ノ公債証書並ニ銀行紙幣引換ノ準備金モ亦其割合

ニ從テ之ヲ増減スヘシ

公債証書銀行紙幣交收割合ノ件

第二十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ニ於テ資本金集合ノ手續ヲ了リタル後公債証書ヲ納メテ同額ノ銀行紙幣ヲ受取リ其引換準備金ヲ積立ルノ割合ハ即チ左ノ如シ

例ヘハ資本金拾萬圓ヲ以テ創立スル銀行ナレハ

八萬圓ハ 四朱以上利付ノ公債証書實價八萬圓ニ

當ル高ヲ出納寮ヘ納メ即チ八萬圓ノ銀

行紙幣ヲ紙幣寮ヨリ受取ヘシ

貳萬圓ハ 通貨ヲ以テ銀行ニ積置キ銀行紙幣引換

ノ準備トナスヘシ

但シ此條例第三十條ニ掲クル所ノ規定ニ從テ資

本金ヲ集合スルハ其入金毎ニ右ノ割合ヲ以テ

公債証書銀行紙幣交收ノ手續ヲナスヘシ

銀行紙幣領受ノ件

第二十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取支配人ハ公債

証書ヲ出納寮ヘ納メ其受取証書ヲ領受シタル後同額ノ

銀行紙幣ヲ各種ノ種類ニテ紙幣寮ヨリ受取リ之ニ頭取

支配人等ノ名印ヲ加用シ以テ銀行營業ノ資本トナスヘ

シ

公債証書
勘査ノ件

第二十四條 右公債証書ノ請取証書ハ紙幣頭出納頭ノ連署調印シタル者タルヘシ尤此公債証書ノ勘査ニ付テハ該兩寮頭互ニ其簿冊ヲ開ラキ須ラク注意ヲ盡シ詳明ニ之ヲ記入シ又互ニ之ヲ點檢スルヲ得ヘシ

公債証書ノ改入
并ニ委任狀ノ件

第二十五條 此條例第十八條ニ掲クル所ノ出納頭ニ預ケタル公債証書ハ毎年一度(又ハ數度)銀行ノ役員出納寮ニ至リテ之ヲ點檢シ其銀行ノ元帳ニ照シテ其種類員額等相違ナキニ於テハ改入ハ改濟ノ旨ヲ書面ニ認メ之ヲ出

納頭へ差出スヘシ

但シ右改入出納寮へ出ル時ハ其銀行頭取ノ委任狀ヲ持參スヘシ

公債証書
換納ノ件

第二十六條 右公債証書ハ銀行ノ都合ニヨリ四朱以上利付ノ他ノ公債証書ヲ以テ之カ引換ヲ申請シ紙幣頭ノ考案ニ於テ差支ナシトセハ其趣ヲ出納頭へ通知シ之ヲ交換下附スヘシ

但シ其引換ヘタル趣並ニ其公債証書ノ種類金額等ハ紙幣出納兩寮ノ簿冊ニ詳記スヘシ

公債証書
利息ノ件

第二十七條 右公債証書ヨリ生スル年々ノ利息ハ其銀行
之ヲ受取り毎年銀行ノ利益精勘定ノ内ニ加ヘテ之ヲ株
主一同ヘ分配スヘシ

但シ銀行ニ於テ其銀行紙幣引換ノコヲ怠ルカ又ハ此
條例ニ背戻スルコアレハ紙幣頭ハ其利息ヲ取押フル
コアルヘシ

○第三章 株式ノ分割 資本金入金ノ割合 株式没入 株
主牒ノ記入 株式ノ賣買及ヒ資本金増減等
ノ事ヲ明カニス

株式分割
ノ定規

第二十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ資本金ハ之ヲ株式
ニ分割シ百圓又ハ五十圓又ハ貳拾五圓ヲ以テ一株ト定
ムヘシ尤一株百圓ニ分配シタル銀行ノ株式ハ悉皆百圓
ノ金高タルヘシ五拾圓貳拾五圓ノ株式モ亦之ニ準スヘ
シ
但シ拾萬圓以上ノ資本金ヲ以テ創立スル銀行ナレハ
百圓又ハ五拾圓ヲ以テ一株ト定ムヘシ又拾萬圓未滿
五萬圓マテノ資本金ヲ以テ創立スル者ナレハ五拾圓
又ハ貳拾五圓ヲ以テ一株ト定ムヘシ

株式ノ所有ハ其
望ニ任スルノ件

第二十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主タル者ハ各自

ノ望ニ任セ幾株ニテモ之ヲ所持スルヲ得ヘシ而シテ其

株主ハ何レノ屬族何レノ職務アルニ拘ハラズ總テ其所

持株高相當ノ權利ヲ有シ其銀行營業ニ付テノ損益ハ株

高ニ應シテ之ヲ負擔スヘシ

但シ大藏省ノ官員其他ノ官員トモ此銀行ノ事務ニ關

係アル者ハ株主トナルヲ許サス

資本金入金
割合ノ件

第三十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主等ハ開業免狀ヲ

得其業ヲ始ムル前ニ於テ少ナクモ資本金總額十分ノ

五ハ必ス之ヲ銀行ニ入金スヘシ而シテ他ノ十分ノ五ハ

資本金總額ノ十分一ヲ以テ月賦ト定メ開業免狀ヲ得タ

ル月ノ翌月ヨリ入金スヘシ

資本金集合高届
書差出方ノ件

第三十一條 右資本金ノ月賦入金毎ニ其銀行ノ頭取支配

人ハ成規第十三條ニ準據シ資本金集合高届書ヲ紙幣頭

ハ差出スヘシ

株式没
入ノ件

第三十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主等株金ノ月賦

入金ヲ怠ル時ハ頭取取締役等ニ於テ其株ヲ没入シ競賣
其他ノ手續ヲ以テ三十日以内ニ之ヲ賣拂ヒ而シテ其入
用ヲ差引キ尙ホ過金アレハ之ヲ元株主ヘ返還スヘシ尤
此競賣ニ於テ右株式ヲ買取リタル株主モ亦他ノ株主同
様ノ權利ヲ有スヘシ

株式消
除ノ件

第三十三條 右競賣ニ於テ其株ヲ買フ者アラサル時ハ是
迄入金シタル金高ハ銀行ニ没入シテ其株ヲ消スヘシ尤
此消株ニヨリ資本金額此條例第十七條ニ規定スル所ノ
制限ヨリ減少スルキハ頭取取締役等ハ三十日間ニ之ヲ

補ヒ定限ノ高ニ滿タシムヘシ若シ頭取取締役等之ヲ怠
ルキハ紙幣頭ハ其銀行ニ鎖店ヲ申渡シ更ニ跡引受人ヲ
命スヘシ

株主牒ノ製造及
ヒ記入ノ方法

第三十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ株主牒ヲ製シ左ノ
要件ヲ記載スヘシ

第一 各株主ノ姓名。住所。屬族。職業(若シ之アラハ)

第二 各株主ノ所持セル株式ノ番號。箇數

第三 入社ノ年月日

第四 退社ノ年月日

株主牒
記名ノ件

第三十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ創立証書ニ記名ス

ル者ハ即チ其銀行ノ株主タルカ故ニ前條ニ規定セル株
主牒ニ各其姓名ヲ登記スヘシ且其他何人ニテモ(外國人
ヲ除クノ外)爾後其銀行ノ株主トラント同意シ隨テ其
姓名ヲ株主牒ニ登記シタルモノハ又同シク其銀行ノ株
主タルノ權利アルヘシ

株主牒檢
閱ノ件

第三十六條 右株主牒ハ銀行其開業免狀ヲ領受スルノ即

日ヨリ之ヲ其本店ニ備置クヘシ而シテ此株主牒ハ營業

時間ナレハ何時ニテモ株主等之ヲ檢閱スルヲ得ヘシ若
シ銀行其檢閱ヲ拒ミタルハ株主ハ其趣ヲ書面ニ認メ
之ヲ其管轄地方官廳ヘ差出シ紙幣頭ヘノ照會ヲ乞フヘ
シ其照會ヲ得ルニ於テハ紙幣頭ハ直チニ官吏ヲ派遣シ
其本店ヲ檢査セシムルコトアルヘシ

但シ銀行ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其旨ヲ報知
スルニ於テハ壹箇年中日數三十日ニ過キサレハ何時
ニテモ右檢閱ヲ停止スルコトヲ得ヘシ

株主牒ノ記入ヲ
修正スルノ件

第三十七條 右株主牒ニ何人カ故ナク姓名ヲ記入セラレ

又ハ妄リニ除名セラレ又或ハ退社セシ所以ノ記載ヲ故
ナク遷延セラレタル等ノ事アリテ其人ノカ爲メ妨碍ヲ
受クルニ於テハ其事由ヲ書面ニ認メ之ヲ其管轄地方官
廳へ差出シ紙幣頭へノ照會ヲ乞フヘシ其照會ヲ得ルニ
於テハ紙幣頭ハ直チニ銀行ニ命シテ之ヲ修正セシムヘ
シ

株式賣買
讓與ノ件

第三十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株式ハ成規第二十
七條三十條ニ規定スル所ノ手續ヲ以テ之ヲ賣買讓與ス
ルヲ得ヘシ

但シ銀行ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其旨ヲ報知
スルニ於テハ一箇年中日數三十日ニ過キサレハ何時
ニテモ其株式ノ賣買讓與ヲ停止スルヲ得ヘシ

株式賣却讓與ニ於
ケル名代人ノ權利

第三十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主死去スルノ際
名代人ヲ以テ株式ヲ賣却讓與スル等ノ事アルハ假令
ヒ此名代人ハ其銀行ノ株主ニ非スト雖モ記名調印等ノ
事ニ至リテハ猶ホ株主同様ノ權利ヲ有スヘシ

資本金増
加ノ件

第四十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ社中ノ格段決議ヲ經

テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ其資本金額ヲ増加スル
コトヲ得ヘシ而シテ右増加スヘキ資本金額ノ制限ハ大藏
卿ヘノ稟議ヲ經テ紙幣頭之ヲ定ムヘシ故ニ其資本金額
ヲ増加スルニハ紙幣頭ニ申請シ其承認ヲ得テ之ニ從事
スヘシ尤全ク入金濟ノ上ハ成規第十四條ニ準據シテ其
増加証書ヲ差出スヘシ

資本金増加ニ付公
債証書納方ノ件

第四十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行前條ニ掲クル如ク資
本金ヲ増加セシニヨリ公債証書ヲ納メ銀行紙幣ヲ請取
ルノ手續ハ現ニ其株主タル者ヨリ増加ノ總額ヲ全ク入

一一一

金シタル後ニ非レハ之ヲ施行スルヲ許サス

資本金減
少ノ件

第四十二條 此條例ヲ遵奉スル銀行若シ其資本金額ヲ減
少セントスル時ハ社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認
ヲ得ルニ於テハ之ニ從事スルヲ得ヘシ尤其減少ノ高ハ
此條例第十七條ニ於テ規定スル所ノ員額ヨリ下ルヲ許
サス但シ紙幣頭ノ承認ヲ得テ此決議ヲ施行セントスル
ニ於テハ其施行ノ日限ヨリ少ナクモ三箇月以前ニ於テ
資本金ノ減少員額ト其残り資本金額トヲ記載シタル報
告ヲ製シ適宜ノ手續ヲ以テ之ヲ其預リ金アル得意先ヘ

送達スヘシ且右減少セントスルノ趣ハ其銀行所在ノ地ニ行ハル、三種以上ノ新聞紙ヲ以テ三箇月以上毎日之ヲ公告スヘシ

資本金減少ニ際シ貸金及ヒ預ケ金アル者ノ權利

第四十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行若シ前條ノ如ク其資本金額ヲ減少セントスルニ際シ其銀行ヘ貸金。預ケ金等アル者ハ未タ其仕拂期日至ラスト雖モ右減少ヲ施行スヘキ日限前一箇月ノ間ナレハ何時ニテモ左ノ定則ニ準據シ之カ償却ヲ乞フノ權利アルヘシ

第一 凡ソ定期預ケ金アル者ハ其元金並ニ當日迄ノ

利息ヲ受取ルノ權利アリトス

第二 其他期限未滿タリトモ凡ソ銀行ヨリ受取ルヘキ勘定アル者ハ時ノ相場ヲ以テ其仕拂期日迄ノ利息ヲ引去リ殘金高ノミヲ受取ルノ權利アリトス

資本金減少許可ノ件

第四十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ此條例第四十二條四十三條ニ掲ケル所ノ諸般ノ手續ヲ了ルニ於テハ成規第十五條ニ準據シ其減少証書ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ若シ右第四十二條四十三條ノ規定ニ背戻シ資本金減少ノ

報告又ハ公告ヲ怠リ及ヒ期限未滿ノ勸定仕拂ヲ拒ムコ
アルキハ紙幣頭ハ右資本金減少証書ニ許可ヲ與ヘサル
ヘシ

○第四章 銀行紙幣ノ製造及ヒ種類其通用ノ能力引
換場所及ヒ燒捨等ノ事ヲ明カニス

銀行紙幣
製造ノ件

第四十五條 此條例ヲ遵奉シテ發行スル所ノ銀行紙幣ハ
大藏卿ノ命ヲ奉シ紙幣頭其製造ノ事務ヲ董括シ極メテ
其紙質ノ堅牢ト彩紋ノ精緻ヲ要シ深ク贗摸ノ弊ヲ豫防
スルノ術ヲ盡シテ以テ之ニ從事スヘシ

但シ右銀行紙幣製造ノ入費ハ其銀行ヨリ現費ヲ以テ
紙幣寮ヘ納ムヘシ

銀行紙幣
ノ種類

第四十六條 右銀行紙幣ノ種類ハ壹圓貳圓五圓拾圓貳拾
圓五拾圓百圓五百圓ノ八種ト定メ銀行ノ望ニ應シテ製
造下付スヘシ

但シ五圓以下ノ銀行紙幣ハ其銀行發行總額十分ノ五
ヨリ多カラサルヘシ

銀行紙幣
下付ノ件

第四十七條 右銀行紙幣ノ表裏面ニハ政府ノ公債証書ヲ

抵當トシテ發行スルノ旨趣及ヒ其他ノ要件ヲ摘載シ大藏卿並ニ出納頭記録頭ノ印ヲ鈐シ且大藏省並ニ銀行ノ記號番號ヲ押捺シテ紙幣頭之ヲ其銀行ヘ下付スヘシ而シテ銀行ニ於テハ之ニ其頭取支配人ノ名印ヲ加用スヘシ

銀行紙幣通用ノ能力

第四十八條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル國立銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣ハ諸官廳又ハ銀行會社其他ヲ論セス日本全國何レノ地ニ於テモ租稅運上貸借ノ取引俸給其他一切公私ノ取引ニ於テ都テ政府發行ノ貨幣同様

通用スヘシ

但シ公債証書ノ利息ト海關稅ニハ之ヲ用ケルヲ許サス

銀行紙幣引換ノ件

第四十九條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣ハ其銀行ノ本店ニ於テ之ヲ引換フヘシ但シ支店ヲ設置スル銀行ハ其銀行ノ都合ニ依リ本店ノ外支店ニ於テモ亦其引換ニ從事スルヲ得ヘシ

銀行紙幣ヲ拒ミタル者ニ於ケル處分ノ件

第五十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行

紙幣通用ノ際其授受ヲ拒ミ或ハ之ヲ妨ケ其他不正ノ所
爲ヲナス者アルニ於テハ皆國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ
損壞銀行紙幣引
換並ニ燒捨ノ件

第五十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル所ノ銀
行紙幣通用中敗裂汚染等ニテ通用シ難キモノアルニ於
テハ其所持人ハ銀行ニ持參シテ之ヲ引換フヘシ而シテ
銀行ハ之ヲ紙幣頭へ差出シ其代リ銀行紙幣ヲ受取ルヘ
シ○尤右引換銀行紙幣ノ種類。記號。番號。金額等ハ之ヲ紙
幣寮ノ公書及ヒ銀行ノ簿冊ニ詳明ニ記入シ其廢紙幣ハ
大藏卿ヨリノ立會ヲ得テ紙幣頭ハ其主任ノ官員ヲシテ

銀行營業
ノ本務

第五十二條

此條例ヲ遵奉スル銀行ハ金銀ヲ引受貸シ抵

銀行役員ノ立會ヲ要シ之ヲ燒捨ニ付スヘシ而シテ其趣
ハ尙ホ右簿冊ニ登記シ各記名調印スヘシ

但シ右燒捨ノ後ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其趣
ヲ世上ニ公告スヘシ

○第五章 銀行營業ノ本務。公債証書其他ノ賣買並ニ
貸附金ノ制限。利息ノ制限。銀行紙幣並ニ株
式抵當ノ制禁及ヒ預リ金準備等ノ事ヲ明
カニス

當貸シノ別ナク貸附ケ又ハ當坐並ニ定期預リ金ヲ爲シ
又ハ爲換ヲ取組ミ又ハ爲換手形。約束手形。代金取立手形
其他ノ証書ヲ割引シ又ハ公債証書。外國貨幣並ニ金。銀。銅
ノ地金ヲ賣買シ及ヒ保護預リ又ハ兩替等ノ事ヲ以テ營
業ノ本務トナスヘシ

公債証書ノ賣買ヲ專ラ
ニスルヲ得サルノ件

第五十三條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ本務タルヤ前條ニ
掲クル所ノ種類ナルヲ以テ公債証書ノ賣買ヲナスヲ得
ルト雖モ貸附金。預リ金。爲換等ノ如キハ殊ニ銀行ノ主ト
シテ爲スヘキ營業ノ目的タルニヨリ此等ノ事業ヲ經營

セスシテ唯公債証書ノ賣買ヲ專ラニスルヲ許サス
他ノ會社ノ株主トナルヲ得サル
ノ件及ヒ地所物件賣買ノ制限

第五十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ前第五十二條ニ掲
クル所ノ營業本務ノ外地所家屋其他物件ノ賣買ヲナス
ヘカラス又職工作業ノ功ヲ興シ及ヒ此等ノ功ヲ興ス會
社ノ株主トナルヲ許サス尤左ニ掲載スル所ノ條件ニ付
テハ地所又ハ家屋物件等ヲ賣買シ又ハ之ヲ引取リ又ハ
之ヲ所持スル等ノ事ハ此條例ニ於テ之ヲ宥恕スヘシ但
シ銀行所有ノ地所ハ勿論一般ノ地稅法ニ從フヘシ
第一 銀行ノ業ヲ營ムヘキ爲メ緊要ナル地所家屋ハ

之ヲ買取リ之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ
第二 滯貸金ノ抵當トシテ質物ニ取リタル地所物件

ハ之ヲ引取り之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ
第三 貸金返濟ノ約定日切トナリテ借主ヨリ返金ノ

代リトシテ引渡サレタル地所物件ハ之ヲ引取
リ之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第四 銀行ヨリ貸金ノ抵當又ハ質物トナリシモノニ
シテ官廳ノ裁判ヲ經テ賣拂ヒトナリタルモノ
カ又ハ之ヲ引取りタルモノ又ハ右質入ノ流込
ミトナリタルモノ又ハ銀行ヨリノ貸金ヲ返濟

スル爲メニ賣物ニ出シタル地所物件ハ之ヲ買
取り之ヲ引取り之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘ
シ

地所其他ノ物
件賣拂ノ期限

第五十五條 前條ニ掲クル所ノ款項中銀行營業ノ爲メ緊

要ナル地所家屋ヲ除クノ外銀行ニ於テ引取り又ハ買取
リタル地所物件ハ遅クモ十箇月以内ニ於テ之ヲ賣拂フ
ヘシ

貸付金
ノ制限

第五十六條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ貸附クル所ノ金

額ノ制限ハ一口ニ付資本金總額ノ十分一ヲ限リトナス
ヘシ

貸付金利
息ノ制限

第五十七條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ貸付金ノ利息ハ年
壹割(元金十分ノ一)ヨリ超過スヘカラス若シ此制限ヲ超
過シ不相當ノ利息ヲ要スルコトアルニ於テハ紙幣頭ハ
大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ其銀行ヲ督責シ以テ之ヲ其制限
ノ割合ニ歸セシムヘシ

銀行紙幣及ヒ株式ノ
抵當並ニ賣買ノ制禁

第五十八條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其銀行紙幣ヲ抵當

預リ金
ノ準備

又ハ質物トシテ借金ヲナスヘカラス又其銀行ノ株式ヲ
抵當ニ取リテ貸付金ヲナスヘカラス又其株ノ買主トナ
リ又ハ其株主トナルヘカラス然レモ貸付金ノ滞リニテ
銀行ノ損失トナルコトアレハ止ムヲ得ス其株ヲ引當ニ取
リ又ハ買取ルコトヲ得ヘシ尤其株ハ遅クモ六箇月以内ニ
於テ之ヲ賣拂フヘシ

第五十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ諸方ヨリノ預リ金
ヲ他ヘ運轉流用スルニハ須ラシク之カ制限ヲ立テ其預リ
金總額ノ内少クモ十分ノ二。五(即チ四分ノ一)ヲ引殘シ之

ヲ返却ノ準備トシテ銀行ノ金庫中ニ積立置クヘシ尤内
十分一ノ員額ハ政府ノ公債証書ヲ實價ヲ以テ積立ルヲ
得ヘシ

但シ此準備金ハ銀行紙幣引換ノ準備金ト混同スヘカ
ラス

發行紙幣準備金ノ制限ヲ
超過スルニ於ケルノ件

第六十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其營業ノ爲メ銀行紙
幣ヲ發行スルニハ此條例第二十條ニ規定シタル準備金
ノ割合ヲ超過スヘカラス若シ此割合ヲ超過シテ發行ス
ルキハ紙幣頭ハ之ヲ督責シテ速カニ其準備金ヲ増加シ

二三

規定ノ割合ニ滿タシムヘキ旨ヲ命スヘシ若シ銀行ニ於
テ此命ヲ受ケシ日ヨリ三十日ヲ過キテ尙ホ増加スルコ
ト怠ル時ハ紙幣頭ハ其銀行ノ開業免狀ヲ取上ケ跡引受
人ヲ命スヘシ

準備金不足スルニ際シ株
主等一時償辨スルノ負責

第六十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ニ於テ銀行紙幣ノ引
換或ハ預リ金ノ返濟又ハ爲換手形。約束手形等ノ仕拂ヲ
ナスニ當リ兼テ積置キタル準備金ヲ以テ之ヲ償フコ能
ハサルキハ其銀行ノ株主等ハ各其所持ノ株數ニ應シ別
ニ出金シテ一時之ヲ償辨スルノ責ニ任スヘシ